

**ルワンダ共和国**  
**障害を持つ除隊兵士の社会復帰のための**  
**技能訓練プロジェクト**  
**中間評価調査報告書**

平成19年12月  
(2007年)

独立行政法人国際協力機構  
人間開発部

人間
J R
07-050

**ルワンダ共和国**  
**障害を持つ除隊兵士の社会復帰のための**  
**技能訓練プロジェクト**  
**中間評価調査報告書**

平成19年12月  
(2007年)

独立行政法人国際協力機構  
人間開発部

## 序 文

紛争終結後の国に対する協力事業が増えつつある中、平和構築に関連する案件について評価の視点を再考すべきとする議論がある。紛争後の地域における制約や援助実施上のリスクを勘案する必要があるとともに、緊急的な対応が求められる状況において、プロジェクト終了後の自立発展性の考え方に柔軟性が求められる等の特色があるためである。

本プロジェクトでは、長年にわたるフツ族対ツチ族の内戦および1994年の大虐殺やその後のコンゴ民主共和国（DRC）等との紛争を経験したルワンダ共和国において、肥大化したルワンダ愛国軍の縮小と民兵の動員解除と帰還の推進を行う過程で、障害を持つ除隊兵士の社会復帰を促進する支援が実施されていないことに着目した。平和構築を明確に打ち出していないが、プロジェクトの上位目標として「障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立の促進」を掲げており、これは、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに受容され、社会参加することなしには達成できないことから、紛争後の地域における平和構築を意図した案件と位置づけられる。

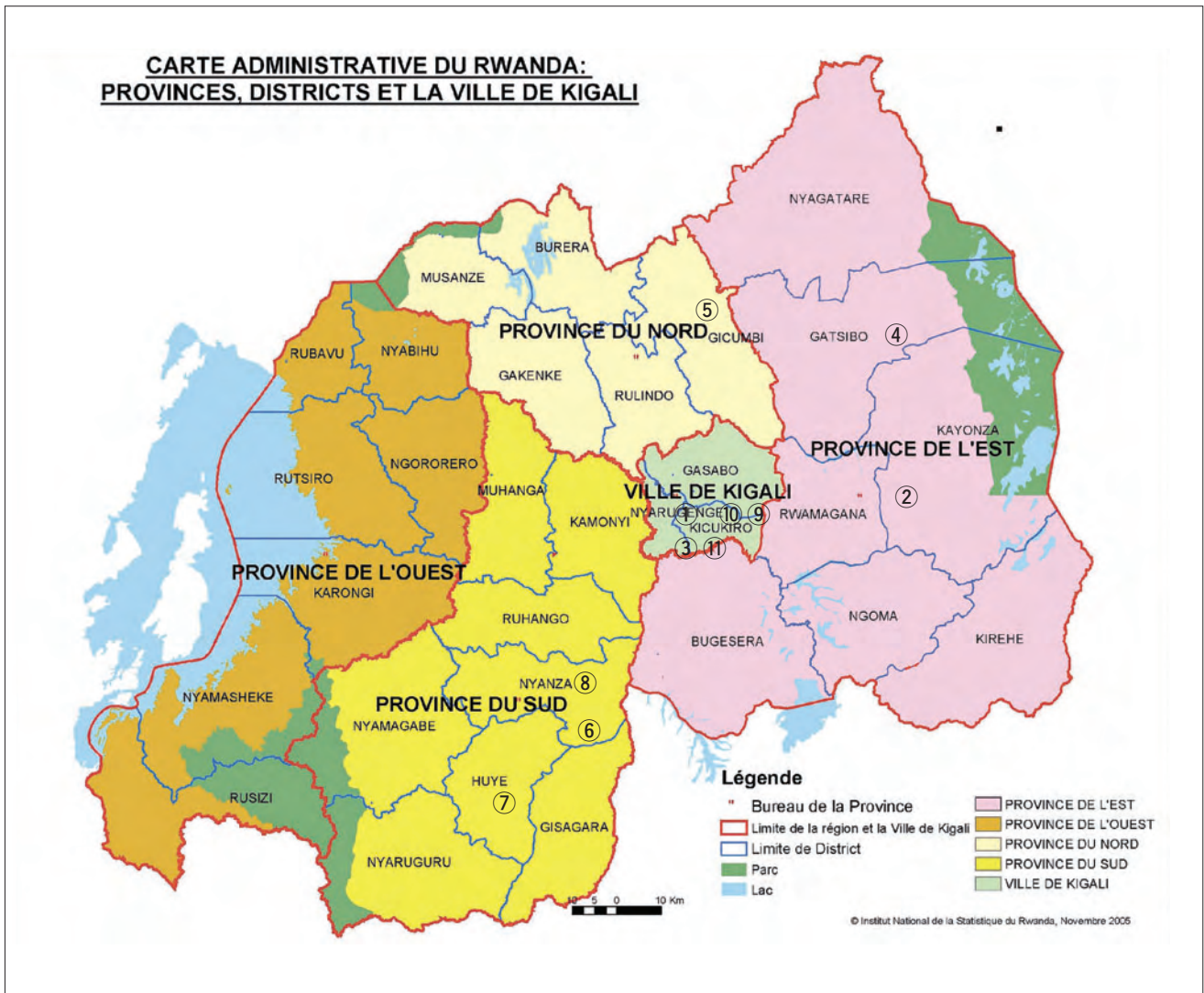
今回の中間評価では、評価5項目に基づく評価を実施したが、平和構築案件としての本プロジェクトの特色に留意し、特にインパクトや提言において平和構築の視点を盛り込んでいる。本調査報告書は、今後のプロジェクトの展開のみならず、類似の事業の形成や評価にも有益な内容となっており、広く活用されることを願うものである。

ここに、本調査にご協力をいただいた内外関係者の方々に深い感謝の意を表するとともに、引き続き一層のご支援をお願いする次第である。

平成19年12月10日

独立行政法人国際協力機構  
人間開発部長 西脇 英隆

## 協力対象地域地図



- ① ルワンダ動員解除・社会復帰委員会 (RDRC)
- ② Amizero Training Centre (ATC)
- ③ Association Generale des Handicapes du Rwanda
- ④ CFJ Gakoni
- ⑤ CFJ Kibali
- ⑥ CFJ Nyanza
- ⑦ CFJ Rwabuye
- ⑧ HVP Gatagara
- ⑨ Gako Organic Farming Training Centre
- ⑩ Union Rwandaise des Aveugles
- ⑪ Rwanda Network Computer

## 略語一覧

AG	Armed Group	武装グループ、民兵
AGHR	Association Générale des Handicapés du Rwanda	ルワンダ障害者市民団体
ATC	Amizero Training Centre	アミゼロ訓練センター
CFJ	Centre de Formation des Jeunes	青年職業訓練センター
DDR	Disarmament, Demobilization and Reintegration	武装解除、動員解除、除隊兵士の社会復帰
DRO	District Reintegration Officer	県社会復帰担当官
FAR	Force Armée Rwandaise	旧政府軍
JCC	Joint Coordination Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
MDRP	Multi-country Demobilization and Reintegration Program	大湖地域における動員解除と社会復帰プログラム
MIFOTRA	Ministry of Public Service and Labour	公共事業・労働省
MINALOC	Ministry of Local Government, Good Governance, Community Development and Social Affairs	地方自治・コミュニティ開発・社会福祉省
MINEDUC	Ministry of Education	教育省
MINICOM	Ministry of Commerce, Industry, Investment Promotion, Tourism and Cooperatives	商業省
MONUC	United Nations Organization Mission to Congo	国連コンゴミッション機構
PDM	Project Design Matrix	プロジェクトデザインマトリックス
PO	Plan of Operation	活動計画
PPMEO	Provincial Program Monitoring and Evaluation Officer	州プログラムモニタリング・評価担当官
RDF	Rwanda Defence Forces	ルワンダ国軍
RDRC	Rwanda Demobilization and Reintegration Commission	ルワンダ動員解除・社会復帰委員会
RDRP	Rwanda Demobilization and Reintegration Programme	ルワンダ動員解除・社会復帰プログラム
RPA	Rwanda Patriotic Army	ルワンダ愛国軍
RPF	Rwanda Patriotic Front	ルワンダ愛国戦線
RWDA	Rwanda Workforce Development Authority	(日本語呼称未定)
STC	Skills Training Centre	技能訓練センター
TOT	Training of trainers	講師に対する研修
TVET	Technical and Vocational Education and Training	産業技術教育・職業訓練
VSW	Vulnerability Support Window	除隊兵士社会的弱者基金
URA	Union Rwandaise des Aveugles	ルワンダ視覚障害者連合





バリアフリー化工事  
(Gako Organic Farming Training Centre)

一般の視覚障害者と共に学ぶ除隊兵士  
(URA：ルワンダ視覚障害者連合)



溶接の訓練 (CFJ Nyanza)



レンガ積みの訓練 (CFJ Nyanza)



CFI Rwabuye での  
意見交換

Gako Organic Farming  
Training Centre で有機栽培に関する訓練を受ける  
除隊兵士



協同組合（出自の異なる  
除隊兵士と民間人から成る）を設立して仕立て屋を営む技能訓練  
センター卒業生



## 評価結果要約表

<b>1. 案件の概要</b>		
国名：ルワンダ共和国	案件名：障害を持つ除隊兵士の社会復帰のための訓練プロジェクト	
分野：社会福祉	援助形態：技術協力プロジェクト	
所轄部署：人間開発部 第二グループ（高等・技術教育）社会保障チーム	協力金額：約1.6億円	
	相手国実施機関：ルワンダ動員解除・社会復帰委員会	
協力期間	R/D署名：2005年12月26日	日本側協力機関：
	プロジェクト期間：3年間	他の関連協力：
<b>2. 協力の背景と概要</b>		
<p>ルワンダにおいては、長年にわたるフツ族対ツチ族の内戦および1994年の大虐殺やその後のコンゴ民主共和国（DRC）等近隣国との紛争後、肥大化したルワンダ愛国軍（RPA、2002年以降ルワンダ国軍:RDF）の適正規模までの縮小と、DRCに流出した民兵（Armed Group: AG）の動員解除と帰還の推進は、政治・治安・経済的な側面からの喫緊の課題であった。</p> <p>この問題に対応するため、ルワンダ政府は「ルワンダ動員解除・除隊兵士社会復帰委員会（Rwanda Demobilization and Reintegration Commission: RDRC）」を設置し、97年にルワンダ動員解除・除隊兵士社会復帰プログラム（Rwanda Demobilization and Reintegration Program: RDRP）を開始した。RDRPにおいて、2004年末までにRPA/RDF兵士のみならず、94年以前の旧政府軍の兵士（ex-FAR）、DRCで活動していた民兵（ex-AG）の3つのグループの計33,945名が除隊された（2007年9月末現在の除隊人数合計は39,723名）。</p> <p>この中には障害を持つ元兵士が多く含まれているが、RDRPにおけるこれらの障害者に対する支援は、医療支援およびリハビリテーション器具の支給に限定されており、社会復帰を促進する技能訓練支援は含まれていない。また、ルワンダにおいて、障害者に対する技能訓練を専門的に実施している機関は限定されており、障害を持つ除隊兵士を社会的、経済的にコミュニティに統合していくための制約は大きい。なお、2005年にRDRCが実施した障害を持つ除隊兵士についての調査によると、身体障害を持つ除隊兵士のうち、約58%が無職である。</p> <p>これら障害を持つ除隊兵士の社会的・経済的なコミュニティへの復帰を支援するため、本プロジェクトにより、非障害者や除隊兵士以外の市民と共に技能訓練を受ける機会を提供することとした。また、技能訓練センターの施設のバリアフリー化や講師に対するトレーニングを通じ、技能訓練センターにおける障害者受入能力が強化されることも本プロジェクトの成果の1つと位置づけている。さらに、技能訓練センターや障害を持つ除隊兵士に関する情報の収集・分析を行い、これらの活動を通じて、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに復帰するための経験・知識がルワンダ動員解除・社会復帰委員会（RDRC）および技能訓練センターにおいて蓄積・共有されることを目標としている。</p> <p>なお、本プロジェクトは元RPA/RDF兵士、元旧政府軍兵士（ex-FAR）、元民兵（ex-AG）を対象としており、近年ではこのような場合に「除隊兵士（demobilized soldiers）」よりも「元戦闘員（ex-combatants）」という呼称を用いるのが一般的となってきているが、本プロジェクトでは、プロジェクト開始当初にルワンダ政府や世界銀行等の関係ドナーが用いていた「除隊兵士」を使用している。</p>		
<b>3. 協力内容</b>		
<p>(1) 上位目標 関係機関の協力により障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される。 →中間評価調査の結果、以下のとおり改訂：<u>障害を持つ除隊兵士の技能訓練を所掌する政府機関および技能訓練センターの協力により障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される。</u></p> <p>(2) プロジェクト目標 技能訓練を通じ、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに復帰するための経験・知識が蓄積され、</p>		



関係機関と共有される。

→中間評価調査の結果、以下のとおり改訂：技能訓練を通じ、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに復帰するための経験・知識がルワンダ動員解除・社会復帰委員会（RDRC）および技能訓練センターにおいて蓄積・共有される。

### (3) 成果（アウトプット）

成果-1:技能訓練センターにおける障害者受け入れ能力が強化される。

成果-2:障害を持つ除隊兵士が技能を修得する。

成果-3:技能訓練センターおよび障害を持つ除隊兵士に関する情報を蓄積するシステムが構築される。

→中間評価調査の結果、以下のとおり改訂：障害を持つ除隊兵士のための技能訓練の改善のために、技能訓練センターおよび障害を持つ除隊兵士に関する情報を蓄積・分析・活用するシステムが構築される。

### (4) 投入

[日本側]

-長期専門家 1名（業務調整）

-短期専門家 近隣国からのトレーナーズ・トレーニング講師

-プロジェクト活動経費

-技能訓練センターのバリアフリー化改修

[相手国側]

-カウンターパート

-ToTのための施設

-事務所、JICA 専門家執務室、会議室

-事務機材、機材の維持費と機材関連消耗品

## 4. 評価調査団の概要

	担当	氏名	所属
調査者	総括	辰見石夫	JICA ルワンダ駐在員
	除隊兵士支援	小向絵理	JICA 国際協力専門員（平和構築）
	協力企画	合澤栄美	JICA 人間開発部社会保障チーム
	評価分析	芹澤明美	グローバル・リンク・マネジメント
調査期間	2007年10月20日～11月8日		評価の種類：中間評価

## 5. 評価結果の概要

### 5-1. 実績の確認

#### (1) 成果の達成度

いずれの成果もプロジェクト終了までに達成される見込みが高い。

成果1「技能訓練センターにおける障害者受け入れ能力が強化される。」

プロジェクトに協力している10校の技能訓練センターのうち、6校がすでにバリアフリー化済みであり、目標（7校）のバリアフリー化の達成見込みは高い。障害者受け入れ能力強化のためのトレーナーズ・トレーニング参加者数（174名）もすでに目標（60名）を越えている。

なお、10校のうち、4校がプロジェクト開始前に独自にバリアフリー化を実施していたことから、残りの6校（うち2校はプロジェクトによりバリアフリー化工事済み）を本プロジェクトによりバリアフリー化することと指標を変更した（変更後の指標：6つの技能訓練センターが本プロジェクトによりバリアフリー化される。）

成果2「障害を持つ除隊兵士が技能を修得する。」

2007年9月末までに、約600名の障害を持つ除隊兵士が技能訓練を受講した。過去の訓練生の修了率は93%となっており、今後卒業生の目標数（800名）も達成される見込みが高い。また、卒業生のうち習得した技能を活用した経験がある者の割合が68%となっている。

成果3「技能訓練センターおよび障害を持つ除隊兵士に関する情報を蓄積するシステムが構築される。」→中間評価調査の結果、以下のとおり改訂：「障害を持つ除隊兵士のための技能訓練の改善のために、技能訓練センターおよび障害を持つ除隊兵士に関する情報を蓄積・分析・活用するシステムが構築される。」

情報をとりまとめたデータベースが作成された。現在のところRDRCの解体もしくは機能縮小後に障害を持つ除隊兵士の技能訓練を一義的に担当する機関が特定されていないが、プロジェクト終了後にはその機関がデータベースを活用し、情報の蓄積やアップデートを実施できるよう、残りのプロジェクト期間にJICA専門家（現在のデータベースは専門家が主体となって作成）からのノウハウの移転が必要である。

## (2) プロジェクト目標

技能訓練を通じ、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに復帰するための経験・知識が蓄積され、関係機関と共有される。

→中間評価調査の結果、以下のとおり改訂：技能訓練を通じ、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに復帰するための経験・知識がルワンダ動員解除・社会復帰委員会（RDRC）および技能訓練センターにおいて蓄積・共有される。

プロジェクト終了までに達成される見込みが高い。障害を持つ除隊兵士を対象にした技能訓練の方法およびバリアフリー化工事の方法は、技能訓練センターや関係機関の協力を得てプロジェクトに経験・知識が蓄積されている。プロジェクト終了までにその経験をマニュアルとして取りまとめ、障害を持つ除隊兵士の技能訓練に関係する機関と共有する予定である。

なお、評価前のPDMでは、プロジェクト目標を「…経験・知識が蓄積され、関係機関（RDRC、教育省、地方自治・グッドガバナンス・コミュニティ開発・社会福祉省）と共有される」としていたが、本プロジェクト終了後に障害を持つ除隊兵士の技能訓練を担当する関係機関が評価時において変更されていたほか、最終的な体制が不明確であることから、本プロジェクトにおいてはRDRCと技能訓練センターの強化を目標とすることとし、プロジェクト目標を変更した。

## (3) 上位目標

関係機関の協力により障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される。

→中間評価調査の結果、以下のとおり改訂：障害を持つ除隊兵士の技能訓練を所掌する政府機関および技能訓練センターの協力により障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される。

上位目標が達成できるかどうかは、プロジェクトが終了した後、障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立を支援する仕組みが中央政府レベルで構築されるか、それが機能するかに左右される。RDRP（Stage II）による支援が2008年12月に終了した後のRDRCの規模や具体的な業務内容はまだ確定しておらず、障害を持つ除隊兵士の技能訓練が業務内容に含まれるかどうか未定である。2007年に発布した「障害を持つ除隊兵士法」によると、地方自治・グッドガバナンス・コミュニティ開発・社会福祉省の下に障害を持つ除隊兵士を支援する機関が設立される予定であるが、その業務内容の詳細は、障害を持つ除隊兵士の技能訓練が含まれるかどうか含め、未定である。

上位目標の指標データを入手するための仕組みははまだ確立していないものの、本プロジェクトの現在までの経験では、技能訓練によって障害を持つ除隊兵士の就業状況および社会参加状況がある程度改善されたといえる

なお、将来的な体制が不明である状況に鑑み、上位目標の文言を変更することとした。

## 5-2. 評価結果の要約

### (1) 妥当性：高い

障害を持つ除隊兵士のニーズおよび平和構築の一環として彼らの社会復帰を重要課題とするルワンダ国・社会のニーズに照らして、本プロジェクトの妥当性は高い。

RDRP（Stage II）は、除隊兵士の社会復帰を促す目的で収入向上事業への支援や技能訓練の実施をしているが、結果として障害を持つ除隊兵士は技能訓練にアクセスできていない。本プロジェクトは彼らに技能訓練の機会を提供し、経済的な自立のための選択肢を増やすだけでなく、彼らが訓練を通じて一般市民や他出自の除隊兵士と交流を深めることで、紛争後の平和構築にも資するものである。

障害者支援に関しては、ルワンダ政府が2007年に「障害者法」と「障害を持つ除隊兵士法」の2つの法律を新たに制定した。本プロジェクトは、技能訓練センターのバリアフリー化工事や、障害者の技能訓練についてのトレーナーズ・トレーニングを実施することで技能訓練センターの障害者受け入れ能力強化を目指しており、障害者一般のニーズにも応えている。

日本政府が提唱する「人間の安全保障」の概念および紛争後の平和構築支援の方向性と本プロジェクトは整合している。また、JICAの対ルワンダ協力事業の中で、本件は平和構築に直接貢献する事業として位置づけられている。

(2) 有効性：高い

プロジェクト目標の達成に向けて順調に進捗していること、技能訓練センターがカリキュラム開発や施設のバリアフリー化工事の経験に加え、講師の考え方・態度等も含めて、障害者のための技能訓練を行う能力を強化したこと、中央政府のレベルでRDRCとJICAが協同して、障害を持つ除隊兵士の技能訓練事業プロセス全体のノウハウを蓄積してきたことから、有効性は高い。

(3) 効率性：高い

本プロジェクトは、技能訓練センター、訓練講師、カリキュラム等、既存のものを利用しながら活動を進めることで予定された「成果」を達成しつつあり、効率性が高い。障害を持つ除隊兵士の技能訓練の実績は、目標に対して量的・質的に満足できるものといえる。現在までに目標の75%にあたる約600名が受講済みである。訓練生の修了率が93%と高いこと、習得した技能を使った経験のある修了生の割合が68%であることは、投入が効率的に使用されたことを示している。

(4) インパクト：正のインパクトが発現している

上位目標である「障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される」の一部をプロジェクトは達成しつつある。技能訓練によって、障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的参加が促進されていることが確認された。

正のインパクトとして、技能訓練センター等プロジェクト関係者が、障害を持つ除隊兵士および、障害者一般に対する理解を深めたことが確認された。また、技能訓練を通じて一般市民（障害の有無にかかわらず）や他の出自の除隊兵士と知り合い、協同組合を一緒に立ち上げる例も見られるなど、一般市民との協働や除隊兵士間で出自の違う3グループ（Ex-RPF/RDF, Ex-FAR, Ex-AG）の融和にも貢献したことが挙げられる。

(5) 自立発展性：技術面の自立発展性は高いが、財政面の自立発展性を高めるための取り組みが必要。

技能訓練センターにおいて本プロジェクトを通じて習得した技術面での知識を活用するという点について自立発展性は高い。他方、障害を持つ除隊兵士に対する技能訓練にかかる経費は本プロジェクトにより賄われているため、継続して技能訓練を実施するためには、資金源の確保が必要である。

中央レベルにおいては、RDRCの2008年以降の具体的な業務内容が現段階では確定していない。除隊兵士の技能訓練をどの機関が監督するのかも未定だが、自立発展性を確保する仕組みづくりをその機関が行う必要がある。

### 5-3. 効果発現に貢献した要因

プロジェクトの実施プロセスにおいてRDRCとJICAは、障害を持つ除隊兵士の技能訓練に関するその他機関と協力してきた。プロジェクト関係者（JICA専門家、RDRC職員）がこまめに技能訓練センターや卒業生を訪れて意見交換を行い、その結果をプロジェクト活動の改善に活かしてきた。

### 5-4. 問題点および問題を惹起した要因

RDRCが時限的な機関であること、障害を持つ除隊兵士の技能訓練に関わる機関が複数のセクターにわたっていることから、プロジェクト後の持続性を見据えての体制・関係構築が容易でない。プロジェクトは各機関と協力・連携を行ってきたが、RDRCの解体あるいは規模縮小後、障害を持つ除隊兵士の技能訓練をどの機関が一義的に担当するのか未定であり、技能訓練センターの管轄も教育省から公共事業・労働省に移管された（2007年8月）。プロジェクト期間中は、RDRCと技能訓練センターを一義的なカウンターパートとして活動しつつ、他機関との連携をさらに強化していく



ことが求められる。

#### 5-5. 結論

本プロジェクトは、プロジェクト終了時まで所期の目標を達成する見込みが高い。評価5項目の観点（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）からも、好ましい結果が出ている。2008年12月にプロジェクトが終了した後も障害を持つ除隊兵士の技能訓練を継続していくために、中央政府レベルで、資金の確保・配分を含めたその実施体制を整備することが求められる。

### 6. 提言

#### 6-1. 残りのプロジェクト期間における活動への提言

- (1) RDRCとJICAから関係機関に対し、プロジェクトの内容や成果について情報提供を行う。また、各関係機関からも関連の団体等の情報共有を図る。
  - (ア) 公共事業・労働省と協力技能訓練センターからは、他の技能訓練センターに情報を提供する。
  - (イ) 公共事業・労働省は、障害者の雇用にかかる小委員会を通じて、本プロジェクトに関する情報共有を図る。
  - (ウ) 地方自治・グッドガバナンス・コミュニティ開発・社会福祉省は、障害者団体に情報を提供する。
  - (エ) RDRP参加ドナーに対し情報を提供する。
- (2) RDRCは、プロジェクト終了後を見据え、今まで以上にプロジェクト活動に積極的に関与し、蓄積されたノウハウを吸収していく。
- (3) RDRCとJICAは、プロジェクト終了後にもその成果が維持されるような仕組みを確保するため、2008年3月を目処に出口戦略を策定する。RDRCは、中央レベルで除隊兵士の技能訓練を支援する仕組みを確保し、RDRCの機能・業務内容に変更があった際には速やかにJICAに通知する。
- (4) プロジェクトにおける関連機関との連携をさらに強化していく。技能訓練センターにおいて、商業省と協力して協同組合に関するセミナーを開催する等の取り組みが開始されているが、このような取り組みをさらに強化していく。
- (5) プロジェクトは、現在は障害を持つ除隊兵士の中で慢性疾患を持つ者を訓練対象から除外しているが、学んだ技能を活用できる見込みが高い場合は、慢性疾患を持つ者も受け入れることを検討する。
- (6) 公共事業・労働省と技能訓練センターは、卒業生のフォローアップ調査を定期的実施する仕組みを作る。
- (7) JICAは、本プロジェクトの経験を他国・他地域の同様の事業に活かすため、内部での広報活動を活発に行う。

#### 6-2. プロジェクト終了後の協力の方向性に関する提言

- (1) RDRC、地方自治・グッドガバナンス・コミュニティ開発・社会福祉省および公共事業・労働省は、障害を持つ除隊兵士の技能訓練の資金を確保するため、Vulnerable Support Window（社会的弱者の支援基金）や地方政府の資金、他の援助機関等パートナーからの資金を調達する努力をすることが望ましい。
- (2) ルワンダ政府とJICAは、障害者一般に対する協力の可能性を検討することが望ましい。

### 7. 教訓（他の類似プロジェクトの発掘・形成、実施、運営管理に参考となる事柄）

#### 障害者を含む除隊兵士の支援に関する教訓

- (1) 武装解除、動員解除、除隊兵士の社会復帰（Disarmament, Demobilization and Reintegration: DDR）の実施プロセスにおいて、その支援事業を行う際、他の取り組みとの連携や対象者のニーズへの迅速な対応の必要性の観点から、タイミングはきわめて重要であり、時機を逸さないで支援を行うことにより、支援の効果を向上させることができる。
- (2) 除隊兵士を対象とした支援を行う場合、出自の異なるグループが平等に裨益するように配慮することが必要である。本プロジェクトにおいては、当初キガリと東部の技能訓練センターのみと協力していたため、特にEx-AGの直接裨益者の割合が低いという点がRDRCからも指摘されていた。今年に入って、北部州のCFJ Kibaliにおいて協力を開始するとともに、キガリのGako



有機農業研修センターにおいて西部州除隊兵士に対して研修を開始したことから、当該事業における直接裨益者の割合（Ex-RPA/RDF、Ex-FAR、Ex-AG = 78%、15%、7%）は、障害を持つ除隊兵士全体における3グループの割合（80%、13%、7%）とほぼ同等となった。

- (3) ルワンダ政府からの要請は当初、障害を持つ除隊兵士のための技能訓練センターを新たに設立することであったが、本プロジェクトでは既存の技能訓練センターを活用することとした。このように既存の機関を活用することにより、迅速に活動を開始できたという利点がある。また、自立発展性の観点からも、このアプローチが適当であった。
- (4) 障害を持つ除隊兵士に対する技能訓練に関し、技能訓練受講後に収入が短期的に増加していない場合にも、技能訓練センターにおける訓練に障害を持つ除隊兵士が参加することが、一般市民や他の出自の除隊兵士との交流の機会となり、彼らの社会復帰の促進に貢献するという意義や、障害者に対する関係者の意識が向上するという意義があると考えられる。
- (5) 本プロジェクトは、技能訓練センターのバリアフリー化、障害者への技能訓練にかかるトレーナー・トレーニング等、一般障害者の技能訓練へ門戸を開く契機となるような活動も含んでいる。紛争後の社会には、概して多くの障害者が存在するが、データや支援のための体制・資金が整備されていない状況で支援に着手するのは容易ではなく、除隊兵士のように一定程度支援環境が整備されているところから協力をを行い、これを一般障害者支援にも活用していくというアプローチは有効と考えられる。
- (6) 障害を持つ除隊兵士は心身はもちろんのこと、社会経済的にも多くの問題を抱えていることが多い。また、技能訓練センターも除隊兵士や障害者を受け入れることに慣れていない。本プロジェクトにおいては、訓練中、訓練後にプロジェクト関係者が技能訓練センターや卒業生の職場に頻繁に足を運び、タイムリーに個別の問題に対応するような実施体制をとっており、これは非常に有効であった。

# 目 次

序 文

地 図

略語表

写 真

事業事前評価表

第1章 調査の概要	1
1-1 調査団派遣の経緯	1
1-2 調査団派遣の目的	1
1-3 調査結果要旨	2
1-4 調査団構成と調査期間	2
第2章 評価調査の方法	3
2-1 評価調査の手法	3
2-2 主な調査項目と情報収集方法	3
第3章 プロジェクトの実績	4
3-1 投入実績	4
3-1-1 ルワンダ側投入実績	4
3-1-2 日本側投入実績	4
3-2 活動実績	5
3-3 成果達成状況	8
3-4 プロジェクト目標達成の見込み	10
3-5 上位目標の達成見込み	11
第4章 評価5項目による評価結果	13
4-1 妥当性	13
4-2 有効性	14
4-3 効率性	14
4-4 インパクト	15

4-5	自立発展性	15
4-6	貢献・阻害要因	16
4-6-1	貢献要因	16
4-6-2	阻害要因	16
4-7	結 論	17
第5章	PDM改訂	18
第6章	提言と教訓	19
6-1	提 言	19
6-1-1	残りのプロジェクト期間における活動への提言	19
6-1-2	終了時評価に関する提言	20
6-1-3	プロジェクト終了後の協力の方向性に関する提言	20
6-2	教 訓	22
6-2-1	紛争後の地域における障害を持つ除隊兵士支援について	22
6-2-2	平和構築へのインパクト	24
添付資料		
1.	ミニッツ（評価グリッド、改訂後PDMおよびPO、調査日程、 主要面談者リストを含む）	27
2.	評価グリッド（結果含む）	72
3.	質問票に対する回答結果	81
4.	障害者団体の連合の組織改編について	85
5.	協同組合に関する情報	88

# 第1章 調査の概要

## 1-1 調査団派遣の経緯

本プロジェクトは2005年12月から3年間の計画で実施中である。2007年2月に運営指導調査を実施し、活動の進捗状況と課題を確認するとともに、プロジェクトの方向性・実施方針についてルワンダ側関係者と協議し、その結果をプロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix: PDM）と活動計画（Plan of Operations : PO）に反映させた。

同運営指導調査団による主要な提言は以下のとおり。

- (1) 技能訓練の提供にとどまらず、その結果として障害を持つ除隊兵士の就業および生活向上に寄与する協力を行う。
- (2) 持続性の観点から、時限的機関であるルワンダ動員解除・社会復帰委員会（RDRC）のみならず、関係省庁【障害者支援を管轄する地方自治・グッドガバナンス・コミュニティ開発・社会福祉省（MINALOC）、障害児教育を管轄する教育省（MINEDUC）、技能訓練を管轄する公共事業・労働省（MIFOTRA）】、技能訓練センター（STC）との緊密な関係構築を促進する。
- (3) 訓練施設のバリアフリー化などを通じ、一般障害者への裨益を一層意識した協力を進める。
- (4) 訓練を実施している6箇所のSTCの場所がキガリ市、東部州に偏っているため、体制や状況を見極めつつ、北部州、西部州、南部州においても訓練を実施するSTCを発掘する。

上記提言をふまえ、残すところ約1年3カ月となったプロジェクト期間を有効に活用するべく、中間評価を実施することとした。

なお、中間評価に先立ち、長期専門家により、訓練受講者とSTC用のモニタリング、評価シートを作成・回収を行い、JICA案件が障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立にどれだけ貢献したか図るためのデータを収集することとした。

## 1-2 調査団派遣の目的

- (1) プロジェクト活動実績および計画達成状況を確認する。
- (2) プロジェクトを評価5項目の観点（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）から評価する。
- (3) 残されたプロジェクト期間（2008年12月まで）の活動の進め方に関する提言をとりまとめる。
- (4) PDMおよびPOに必要な修整を加え、これらを添付したミニッツに署名を行う。



- (5) JICAが紛争後の地域において障害者を含む除隊兵士の社会復帰支援を行う上での教訓および提言をとりまとめる。

### 1-3 調査結果要旨

- (1) プロジェクト活動は順調に実施されており、プロジェクト終了時まで所期の成果は達成される見込みである。
- (2) 妥当性、有効性、効率性は高く、正のインパクトが発現している。技能訓練センターにおいて障害を持つ除隊兵士を受け入れるノウハウの蓄積や受入能力の向上が確認され、技能訓練センターのレベルにおける自立発展性は高い。プロジェクト終了後、障害を持つ除隊兵士の技能訓練を所管する体制が中央レベルにおいて明確になることが、長期的な自立発展性を高めるうえで重要である。
- (3) 障害者を含む除隊兵士に対する技能訓練に関し、今後、他の案件の形成や実施において参考となる教訓や提言を導き出すことができた。
- (4) 今後の協力の方向性として、本プロジェクトの経験に基づき、障害者（除隊兵士を含む）の社会参加を側面支援することが望ましい。

### 1-4 調査団構成と調査期間

#### (1) 調査団構成

担当	氏名	所属
総括	辰見石夫	JICAルワンダ駐在員
除隊兵士支援	小向絵理	JICA国際協力専門員（平和構築）
協力企画	合澤栄美	JICA人間開発部第二グループ社会保障チーム
評価分析	芹澤明美	グローバル・リンク・マネジメント

#### (2) 調査期間

2007年10月20日から11月8日

## 第2章 評価調査の方法

### 2-1 評価調査の手法

本中間評価調査は、日本側およびルワンダ側の合同評価として、「JICA事業評価ガイドライン」(2004年)に基づき、①PDMに沿って実績と成果を確認、②プロジェクトのデザインと実施プロセスの分析を通じて、貢献要因・阻害要因を確認、③評価5項目からの分析、④PDMの修正、⑤総合評価および提言・教訓の導出、の段階を踏んで実施した。調査結果は「合同中間評価報告書」(Joint Mid-Term Evaluation Report)として取りまとめ、ミニッツの一部として日本・ルワンダ側関係者間で合意・署名された。

本評価調査で使用した評価5項目の定義は次のとおりである。

- (1) 妥当性： 「プロジェクト目標」や「上位目標」が、相手国および受益者のニーズに合致しているか、相手国の政策および日本の援助政策との整合性はあるか、プロジェクトの戦略・アプローチが課題の解決策として妥当か等を確認する。
- (2) 有効性： プロジェクトの実施によって本当に受益者への便益がもたらされているのかを確認する。プロジェクトの「成果」が「プロジェクト目標」達成に貢献しているかどうかを確認する。
- (3) 効率性： プロジェクトのコストと効果の関係に着目し、「投入」および「活動」が、「成果」の達成に有効に活用されているかを確認する。
- (4) インパクト： プロジェクト実施によってもたらされる、より長期的・間接的效果や波及効果を確認する。予測していなかった正・負の効果・影響を含む。
- (5) 自立発展性： 協力終了後も、プロジェクトによって発現した効果が持続していく見込みがあるかどうかを確認する。

### 2-2 主な調査項目と情報収集方法

評価調査の最初に、討議議事録(Record of Discussions: R/D)、PDM(2007年3月7日付)、専門家報告書、その他関連文書から本プロジェクトにかかる基本的な情報を入手した上で、具体的な調査項目を列挙した「評価グリッド」(M/M Annex 2参照)を作成した。

評価グリッドに従って、文献調査、プロジェクト専門家・カウンターパート・技能訓練講師および訓練生・卒業生に対する質問票調査とインタビュー、技能訓練センターの視察を実施し、情報の収集・分析を行った。

## 第3章 プロジェクトの実績

### 3-1 投入実績

#### 3-1-1 ルワンダ側投入実績

##### (1) カウンターパート

ルワンダ動員解除・社会復帰委員会（Rwanda Demobilization and Reintegration Commission: RDRC）および、技能訓練センター（Skills Training Centres: STCs）9校（2007年10月現在）が本プロジェクトの協力先機関である<sup>1</sup>。RDRC職員6名とSTC9校の各校長がカウンターパートとなっている。詳細はミニッツAnnex3に示す。

##### (2) プロジェクト事務所等の提供

地方自治・コミュニティ開発・社会福祉省（Ministry of Local Government, Community Development and Social Affairs: MINALOC）の建物内の1室がプロジェクト事務所として提供されている。電気代等もルワンダ側の負担である。

##### (3) プロジェクト運営費

2007年9月末までにルワンダ側が支出したプロジェクト運営費は580,540ルワンダフラン（Frw）である。内訳は、ラジオでの訓練生募集広告費用（Frw180,540）および、協力STCの1つGako Organic Farming Training Centreのバリアフリー工事費用の一部（Frw400,000）である。

#### 3-1-2 日本側投入実績

##### (1) 専門家

長期専門家1名（業務調整）が2006年3月25日からRDRCに配属されている。

##### (2) プロジェクト運営費

日本側が支出したプロジェクト運営費用は、2007年9月末までの累計で約220百万ルワンダフランである。詳細は次の表のとおり。

---

1 Gatagaraもかつて協力校であったので、協力実績があるのは計10校。

## 日本側プロジェクト運営費

年度	合計 (Frw)	バリアフリー 化工事	技能訓練	スターター キット	ToTs (第三国 専門家含む)
2005 (4Q)	30,551,765	0	15,062,828	8,464,600	0
2006	134,439,744	13,003,322	72,899,835	9,526,860	6,130,847
2007 (1Q+2Q)	54,836,244	0	45,904,932	3,413,600	111,000
合計 (日本側プロジェ クト運営費全体に 占める割合)	219,827,753	13,003,322 (5.9%)	133,867,595 (60.9%)	21,405,060 (9.7%)	6,241,847 (2.8%)

### 3-2 活動実績

本プロジェクトの活動は、PDMに照らして順調に行われている。

成果1：技能訓練センターにおける障害者受け入れ能力が強化される。

成果1にかかる活動は、以下に示すとおり順調に進捗している。

#### 成果1にかかる活動の達成状況

活動		達成状況
1-1	施設のバリアフリー化工事の実施	
1-1-1	バリアフリー化のための適切なデザイン企画および改修工事の設計を行う。	STC4校にかかるバリアフリー化デザイン企画・改修工事設計が行われた。 ・ Amizero Training Centre (ATC) (2006年1～5月) ・ Centre de Formation des Jeunes (CFJ) Gakoni (2006年1～5月) ・ Gako Organic Farming Training Centre, CFJ Kibali (2007年6～9月) ・ CFJ Gakoni (工事やり直し) (2007年6～9月)
1-1-2	業者による改修工事を監督する。	CFJ Gakoni と ATC の改修工事を監督した。 (2006年6～8月)
1-1-3	バリアフリー化改修にかかる評価の実施。	CFJ Gakoni と ATC の改修工事の結果を評価した。 (2006年9～10月)
1-2	技能訓練センターの講師に対する研修 (ToT)	
1-2-1	カリキュラム開発および障害者の技能訓練に対する意識向上を目的とした ToT を企画する。	左記2つのテーマに対して、3回の ToT を企画した。 <u>カリキュラム開発:</u> ・ 8つの科目 (溶接、大工、レンガ積み、電気、コンピュータ、水道工、縫製、タイル貼り) のカリキュラム開発 (2006年5～7月に企画作業実施) (ToT a) ・ Union Rwandaise des Aveugles (URA) の農業講師1名に対する有機農法 ToT (2007年5月に企画作業実施) (ToT c)



		意識向上: ・ 障害者の技能訓練に関する意識向上 (2006年12月～2007年2月に企画作業実施) (ToT b)
1-2-2	周辺国から ToT 講師を選定する。	障害者の技能訓練に関する意識向上 ToT の講師1名を南アフリカで選定した。(2007年1～2月に選定作業実施) (ToT b)  (その他、ルワンダ国内からの講師選定) ・ カリキュラム開発の ToT 講師は MINEDUC 職員1名とコンサルタント1名が務めた。(ToT a) ・ 有機農法 ToT の講師は、Gako Organic Farming Training Centre の講師1名が務めた。(ToT c)
1-2-3	ToT を実施する。	ToT を3回実施、計174名が参加した。 1) カリキュラム開発 39名 (2006年7～9月に実施) (ToT a) 2) 障害者の技能訓練に対する意識向上 a) Consultative workshop: 93名, b) ToT: 41名 (2007年3月に実施) (ToT b) 3) URA 農業講師に対し、有機農法にかかる ToT (2007年5月に実施) (ToT c)
1-2-4	ToT の評価を実施する。	ToT の最後に、参加者に対するアンケートを実施した。
	成果1にかかるその他の活動	卒業生のフォローアップ調査(次項参照)の結果を、STCの技能訓練コースの改善に利用した。 例: CFJ Gakoni の靴製作コース卒業生の就業状況が芳しくなかったため、訓練の質向上のため新たな講師を採用した。

## 成果2：障害を持つ除隊兵士が技能を習得する。

障害を持つ除隊兵士を対象にした技能訓練は、現在までに STC10校で実施の実績がある(2007年10月現在の協力校は9校)。

### 成果2に係る活動の達成状況

	活動	達成状況
2-1	訓練生選考基準を作成する。	訓練生選考基準は2006年6～12月に作成された。既存の選考基準も参考にした。
2-2	障害を持つ除隊兵士を受け入れる技能訓練センターを選定する。	STC10校が選定された。内6校は本プロジェクト開始前(プロジェクト形成段階)に選定されており、残る4校は本プロジェクトの活動の中で選定された。
2-3	技能訓練に関する情報を障害を持つ除隊兵士に提供する。 受講者を選定する。	技能訓練の募集案内が、選定(スクリーニング)の2～3週間前にラジオで放送された。 各校の受講者選定は以下のとおり実施された。 ATC: - 1st batch 2006年4月10日 - 2nd 2006年10月23日 - 3rd 2007年7月2日

		AGHR: - 1st batch 2006年1月11日 - 2nd 2007年4月18日 URA: - 1st batch 2006年2月13日 - 2nd 2006年10月9日 - 3rd 2007年7月24日 CFJ Gakoni: - 1st 2006年11月1日 - 2nd 2007年2月15日 Gatagara: - 1st 2006年1月18日 RNC: - 1st batch 2007年2月5日 - 2nd 2007年5月16日 - 3rd 2007年7月18日 - 4th 2007年9月25日 CFJ Kibali: 1st batch 2007年7月5日 CFJ Nyanza: 1st batch 2007年7月5日 CFJ Rwabuye: 1st batch 2007年7月19日 Gako: 1st batch 2007年7月24日
2-4	技能訓練センターにおいて技能訓練を実施する。	STC10校において、技能訓練が以下のとおり実施された。 (実施中のところもあり) ATC: - 1st batch 2006年4月10日から6カ月もしくは1年 - 2nd 2006年10月23日から6カ月 - 3rd 2007年7月2日から6カ月 AGHR: - 1st 2006年1月11日から1年 - 2nd 2007年4月18日から10カ月 URA: - 1st 2006年2月13日から6カ月 - 2nd 2006年10月9日から6カ月 - 3rd 2006年7月24日から6カ月 CFJ Gakoni: - 1st 2006年11月1日から1年 - 2nd 2007年2月15日から1年 Gatagara: 1st 2006年1月18日から1年 RNC: - 1st 2007年2月5日から3カ月 - 2nd 2007年5月16日から3カ月 - 3rd 2007年7月18日から3カ月 - 4th 2007年9月25日から3カ月 CFJ Kibali: 1st 2007年7月5日から6カ月 CFJ Nyanza: 1st 2007年7月5日から6カ月 CFJ Rwabuye: 1st 2007年7月19日から6カ月 Gako: 1st 2007年7月24日から1カ月
2-5	成果2にかかるその他の活動	・プロジェクトと各STCがスターターキットを選定、卒業生に与えている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 卒業生のフォローアップ調査を実施した(2007年7月)。</li> <li>・ 協同組合 (cooperatives) の設立にかかるセミナーを、産業省 (Ministry of Commerce : MINICOM) の協力のもとSTC6校で7回実施した。</li> <li>・ 国連コンゴミッション機構 (United Nations Mission in Democratic Republic of Congo : MONUC) が、本プロジェクトを紹介するラジオ番組 (元民兵 : Ex-AG 訓練生のインタビュー含む) をコンゴ民主共和国の Radio Okapi で放送した (2007年8月)。</li> </ul>
--	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

成果3：技能訓練センターおよび障害を持つ除隊兵士に関する情報を提供する。

成果3に関する活動も計画どおり実施されている。訓練生に関する情報はRDRCと各STCから提供され、RDRCとの協力し、JICA専門家がデータベースにまとめている。

成果3に係る活動の達成状況

	活動	達成状況
3-1	訓練生 (障害を持つ除隊兵士) のモニタリングと評価を実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ STCからプロジェクトに対し、Progress report (訓練コース中間時点) と Final Activity report (訓練コース終了時) が提出されている。</li> <li>・ 卒業生のフォローアップ調査を実施した (2007年7月)。</li> </ul>
3-2	障害を持つ除隊兵士の社会的、経済的、身体的な状況に関するベースライン調査を実施する。	訓練コース入学時に、各訓練生の情報が収集されている。
3-3	技能訓練センターおよび障害を持つ除隊兵士に関するデータベースを作成する。	RDRC、STCとの協力のもと、JICA専門家が左記2つのデータベースを作成中である。
3-4	データベースを定期的にアップデートする方法を開発する。	RDRC、STCとの協力のもと、JICA専門家が左記2つのデータベースをアップデートしている。

### 3-3 成果達成状況

PDMの指標に照らし合わせてみると、「成果」はプロジェクト終了までに達成される見込みが高い。協力を実施しているSTCの、障害を持つ除隊兵士を受け入れる能力は強化された。訓練終了率、就業率 (習得した技能を使った経験がある者の割合) が高いことがこれを示している。「成果3」のデータベースに関しては、現在のところRDRCの解体もしくは機能縮小後に障害を持つ除隊兵士の技能訓練を一義的に担当する機関が特定されていないものの、プロジェクト終了後にはその機関がデータベースを活用していくことが望まれる。

成果1：技能訓練センターにおける障害者受け入れ能力が強化される。

成果1は、指標に照らし合わせるとほぼ達成されている。協力校10校のうち、6校がすでにバリアフリー化済みであり、障害者受け入れ能力強化のためのToT参加者数もすでに目標を越えている。

#### 成果1の達成状況

	指標	達成状況
1-1	7つの技能訓練センターがバリアフリー化される。	プロジェクトは、ATCとCFJ Gakoniのバリアフリー化工事を実施した（2006年）。これによって、協力校10校のうち、6校がバリアフリー化済みとなった。（AGAR, URA, RNC, Gatagaraの4校はプロジェクト開始前からバリアフリー化されていた）
1-2	60人がToTを受講する。	ToTを3回実施、計174名が参加した。 1) カリキュラム開発 39名（2006年7～9月に実施）（ToT a） 2) 障害者の技能訓練に対する意識向上 a) Consultative workshop: 93名, b) ToT: 41名（2007年3月に実施）（ToT b） 3) URA 農業講師に対し、有機農法にかかる ToT（2007年5月に実施）（ToT c）
1-3	ToTが3回実施される。	（上記1-2参照）

成果2：障害を持つ除隊兵士が技能を修得する。

成果2は、指標に照らし合わせると、プロジェクト終了までに達成される見込みが高い。2007年9月末までに、約600名の障害を持つ除隊兵士が技能訓練を受講した（在校生、卒業生、中途退学含む）。過去の訓練生の修了率は93%となっており、現在・将来の訓練生も同程度の修了率であるとするれば、卒業生の目標数も達成される見込みが高い。

指標2-3は、卒業生が安定した収入を得られる職に就いたことを必ずしも示すものではないが、職に就く機会へのアクセスをある程度拡大したとは言える。入学時のベースライン調査結果と2007年7月の卒業生フォローアップ調査の結果を比較すると、月収Frw10,000以下の者（低収入）の割合が62.1%から50.5%に減少した。

#### 成果2の達成状況

	指標	達成状況
2-1	800人の障害を持つ除隊兵士が技能訓練を受講する。	2007年9月末現在で、技能訓練を受講した障害を持つ除隊兵士の累計数は598人である。現在の訓練生、卒業生、中途退学29名、最終試験不合格9名、訓練期間中の死亡2名を含む。 （詳細はミニッツのAnnex 4を参照のこと）

2-2	800人の障害を持つ除隊兵士が技能訓練センターを卒業する。	2007年9月末現在の卒業生は256名である。 修了率は92.8% 「入学者数－(中途退学＋最終試験不合格＋死亡)」/ 入学者数 (詳細はミニッツのAnnex 4を参照のこと)
2-3	訓練を受けた障害を持つ除隊兵士の60%が自立のために所得を創出する。	2007年7月に実施した卒業生フォローアップ調査の結果(対象者192名)、回答者138名(URAの卒業生10名を除く：就業のためというよりは生活技能訓練なので)のうち94名(=68%)がSTCで習得した技能を活用した経験があると回答した。 入学時のベースライン調査結果と2007年7月の卒業生フォローアップ調査の結果を比較すると、月収Frw10,000以下の者の割合が62.1%から50.5%に減少した。
2-4	訓練後にコーポラティブやアソシエーションに参加した障害を持つ除隊兵士の数	卒業生138名のうち(上記2-3の説明参照)、35名がコーポラティブかアソシエーションに参加したと回答した。

成果3：技能訓練センターおよび障害を持つ除隊兵士に関する情報を蓄積するシステムが構築される。

成果3も、指標に照らし合わせて、プロジェクト終了までに達成される見込みが高い。現在のところ、RDRCの解体もしくは機能縮小後に障害を持つ除隊兵士の技能訓練を一義的に担当する機関が特定されていないものの、プロジェクト終了後にはその機関がデータベースを活用していくことが望まれる。

#### 成果3の達成状況

	指標	達成状況
3-1	技能訓練センターに関するデータベースが作成される。	RDRC、STCとの協力のもと、JICA専門家が当該データベースを作成中である。
3-2	障害を持つ除隊兵士に関するデータベースが作成される。	RDRC、STCとの協力のもと、JICA専門家が当該データベースを作成中である。

#### 3-4 プロジェクト目標達成の見込み

プロジェクト目標：技能訓練を通じ、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに復帰するための経験・知識が蓄積され、関係機関と共有される。

プロジェクト目標は、プロジェクト終了までに達成される見込みが高い。障害を持つ除隊兵士を対象にした技能訓練の方法およびバリアフリー化工事の方法は、STCや関係機関の協力を得てプロジェクトによって開発されており、その開発プロセスはSTCや関係機関と共有されてきた。プロジェクト終了までにその経験をマニュアルとして取りまとめ、障害を持つ除隊兵士の技能訓練に関係する機関と共有する予定である。協力STCは、障害を持つ除隊兵士の社会復



帰のため、彼らに対して技能訓練を提供する能力を強化してきた。STCは、プロジェクト終了後も意欲と予算があれば、本プロジェクトの経験を活かして障害を持つ除隊兵士対象の技能訓練を実施していける能力を得たと思われる。

指標	達成状況
<p>1. 以下の項目に関する手順が作成される:</p> <p>(1) 研修を受講した障害を持つ除隊兵士のモニター、フォローアップ方法</p> <p>(2) 障害の程度と収入獲得の機会を考慮した適切な技能訓練の選び方</p> <p>(3) 技能訓練センターに関するデータベースの作成方法</p> <p>(4) 訓練センター講師に対する訓練 (Training of Trainers: ToT) の実施方法</p> <p>(5) 施設のバリアフリー化の方法</p> <p>(6) 上記事項をマニュアルとしてとりまとめる。</p>	<p>左記項目に関する経験はプロジェクトによってとりまとめられている。プロジェクト終了までにはマニュアルが作成される予定である。</p> <p>(1) フォローアップ調査が2007年7月に実施された。それに使うフォローアップシートは、RDRCおよびJICA関係者の協力のもと、プロジェクトが作成し、調査結果はJICA専門家が分析している。</p> <p>(2) 訓練生の選定において、RDRCとSTCの協力のもと、障害の状態・程度に合った訓練コースへのマッチングが行われている。</p> <p>(3) データベースは、RDRCの協力のもと、JICA専門家が作成している。</p> <p>(4) ToTは、RDRCとJICA専門家が協力して実施している。</p> <p>(5) STC2校のバリアフリー化工事に際しては、教育省 (Ministry of Education: MINEDUC), STC講師、地方政府、JICA専門家が専門的な見地からアドバイスを行った。</p> <p>(6) プロジェクト終了までには、上記項目を取りまとめたマニュアルが作成される予定である。</p>
<p>2. 施設がバリアフリー改修により改善される。</p>	<p>STC2校のバリアフリー化工事に際しては、MINEDUC, STC講師、地方政府、JICA専門家が専門的な見地からアドバイスを行った。</p>

### 3-5 上位目標の達成見込み

上位目標：関係機関の協力により障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される。

上位目標が達成されるかどうかは、2008年12月にプロジェクトが終了した後、障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立を支援する仕組みが中央政府レベルで構築されるか、それが機能するかによる。ルワンダ動員解除・社会復帰プログラム (Rwanda Demobilisation and Reintegration Programme: RDRP) Stage IIによる支援が2008年に終了した後のRDRCの規模や具体的な業務内容はいまだ確定しておらず、障害を持つ除隊兵士の技能訓練が業務内容に含まれるかどうかも未定である。2007年に発布された「障害を持つ除隊兵士法」によると、MINALOCのもとに障害を持つ除隊兵士を支援する機関が設立される予定であるが、その業務内容の詳細は、障害を持つ除隊兵士の技能訓練が含まれるかどうかも含め、未定である。上位目標の指標データを入手するための仕組みは、今後ルワンダ側関係機関によって構築されるこ

とが必要である。

上位目標の指標データを入手するための仕組みはいまだ確立していないものの、本プロジェクトの現在までの実績では、技能訓練によって障害を持つ除隊兵士の就業状況および社会参加状況がある程度改善されたといえる。以下に示す訓練開始時の各訓練生データ（ベースライン調査）および2007年7月に実施した卒業生のフォローアップ調査の結果の比較、また中間評価で実施したインタビュー・観察の結果がそのことを裏づけているといえる。

指標	達成状況
1. 障害を持つ除隊兵士の雇用率が向上する。	<p>(障害を持つ除隊兵士の雇用率をモニターするシステムは、関係機関が今後構築することになる)</p> <p>[本プロジェクトの実績]</p> <p><u>ベースライン調査</u>：</p> <p>入学時のデータがある242名のうち、131名(=55%)が何らかの職を有していた(農業や自営含む)。</p> <p><u>フォローアップ調査</u>：</p> <p>2007年7月に実施した卒業生フォローアップ調査の結果(対象者192名)、回答者138名(URAの卒業生10名を除く：就業のためというよりは生活技能訓練なので)のうち94名(=68%)がSTCで習得した技能を活用した経験があると回答した。</p>
2. 障害を持つ除隊兵士と家族、近隣住民、友人、コミュニティの中のグループとの間の関係が改善される。	<p>(障害を持つ除隊兵士の社会参加状況をモニターするシステムは、関係機関が今後構築することになる)</p> <p>[本プロジェクトの実績]</p> <p><u>ベースライン調査</u>：</p> <p>近隣住民と良好な関係にある：67%</p> <p>コミュニティの他の住民と比べて、自分は悪く扱われていると感じる：88%</p> <p><u>フォローアップ調査</u>：</p> <p>訓練受講後、近隣住民との関係が改善したと感じる：95%</p> <p>訓練受講後、前より気分が明るくなったと感じる：82%</p> <p><u>中間評価における観察事項</u>：</p> <p>障害を持つ除隊兵士は、訓練中一般市民や他の出自の除隊兵士と友人関係を構築している。一緒に協同組合(Cooperatives)を作った者も少なからずいる。</p>

## 第4章 評価5項目による評価結果

### 4-1 妥当性

障害を持つ除隊兵士のニーズ、および平和構築の一環として彼らの社会復帰を重要課題とするルワンダ国・社会のニーズに照らし合わせて、本プロジェクトの妥当性は高い。

本プロジェクトはルワンダ政府の開発政策、および除隊兵士の社会復帰政策と合致している。ルワンダ政府は、国内の統一・融和・平和構築を目指し、世銀およびその他のドナー（日本は入っていない）が資金援助している「ルワンダ動員解除・社会復帰プログラム」（Rwanda Demobilisation and Reintegration Programme：RDRP）Stage IIはこのプロセスに貢献している。動員解除目標47,000人に対し、その84%にあたる39,723人が2007年10月までに除隊された（RDRP資料）。RDRP Stage IIはその活動の1つとして、除隊兵士の社会復帰を促す目的で収入向上事業への支援や技能訓練の実施をしているが、STCに障害者を受け入れる条件が整っていないために、障害を持つ除隊兵士が訓練に参加できていなかった。本プロジェクトは彼らに技能訓練の機会を提供したということでも有意義であり、アプローチの観点からも妥当であるといえる。2007年3月時点のデータでは障害を持つ除隊兵士が5,109人登録されており（民兵の帰還が進めば障害を持つ除隊兵士数も増えることが見込まれる）、本プロジェクトはそのうち800名に対して技能訓練を行うことにしている。障害を持つ除隊兵士は、社会復帰にあたって選択肢が少ないので、技能訓練によって経済的な自立のための選択肢を増やすことは有意義である。それだけではなく、彼らが訓練を通じて一般市民や他出自の除隊兵士と交流を深めることで、紛争後の平和構築にも資するものである。

障害者のニーズの観点からは、除隊兵士か一般市民であるかにかかわらず社会参加が困難なことから、彼らを支援して社会参加を促進する本プロジェクトは有意義である。ルワンダ政府も障害者支援の必要性を認識しており、2007年になって「障害者法」と「障害を持つ除隊兵士法」の2つの法律が新たに制定された。「障害を持つ除隊兵士法」は、技能訓練については明記していないものの、第7条で「障害者は、障害の状態に応じた教育の機会を与えられる」こと、および第14条で「障害者が他の候補者と同様の条件を持っていた場合、障害者が優先的に採用される」ことをうたっている。第5条において、障害を持つ除隊兵士を管轄する新しい機関が設立される旨が述べられており、その詳細についての法令が近々発布されることになっている。

本プロジェクトはまた、STCのバリアフリー工事や、障害者の技能訓練についてのToTを実施することでSTCの障害者受け入れ能力強化を目指しており、障害者一般のニーズに応える観点からも適切といえる。

本プロジェクト受益者の設定にあたって、障害を持つ除隊兵士でも慢性疾患のある者は、就業を継続できない可能性が高く、訓練への投資に見合わないことから、対象外としている。しかし

ながら、障害を持つ除隊兵士の中で慢性疾患を持つ者の割合が2.2%と小さいこともあり、訓練の後技能を活用できる見込みがあると判断される場合には、慢性疾患を持つ者も対象にすることを中間評価調査団から提言した。

障害を持つ除隊兵士の社会復帰のニーズに応える意味では、本プロジェクトの形成・実施のタイミングは適切であった。

日本の援助政策で重点化されている「人間の安全保障」の概念、および紛争後の平和構築支援に本プロジェクトは該当しており、日本の援助政策との整合性も確保している。JICAの対ルワンダ協力事業の中で、本件は平和構築に直接貢献する事業として位置づけられている。

#### 4-2 有効性

プロジェクト目標「技能訓練を通じ、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに復帰するための経験・知識が蓄積され、関係機関と共有される」の達成に向けて順調に進捗していることから、本プロジェクトの有効性は高い。

除隊兵士のための技能訓練を行う能力を強化するという観点では、協力STCはカリキュラム開発や施設のバリアフリー化工事の経験を積んだだけでなく、障害を持つ除隊兵士が他の訓練生と同様に訓練に参加できるような環境（講師の考え方・態度等も含む）を整えた。

中央政府のレベルでは、RDRCとJICAは協同して、障害を持つ除隊兵士の技能訓練事業プロセス全体（協力STC選定、訓練生募集、訓練生の選定から卒業生のフォローアップ調査に至るまで）のノウハウを蓄積してきた。このプロセスにはMINEDUC、MINALOC、MINICOM、地方政府も関与してきた。今後は、障害を持つ除隊兵士の技能訓練にかかる本プロジェクトの経験を共有し、利用し、技能訓練を絶えず改良していく仕組みを中央レベルに作ることで、ルワンダ政府に求められる。

#### 4-3 効率性

本プロジェクトは、STC、訓練講師、カリキュラム等、既存のものを利用し、予定された「成果」を達成しつつあることで効率性が高い。既存の「活動」を補足するためにPDMに含まれていなかった「活動」もいくつか実施して、「成果」の達成に貢献している（「活動」の項参照のこと）。

障害を持つ除隊兵士の技能訓練の実績は、目標に対して量的・質的に満足できるものといえる。プロジェクトでは800名の障害を持つ除隊兵士が訓練を受けることを目標にしており、現在までにその75%にあたる約600名が受講済みである<sup>2</sup>。訓練生の修了率が93%と高いこと、習得した技

---

2 RDRCに登録された障害を持つ除隊兵士約5,100人に対しては、本プロジェクトの訓練生の割合は12%となる。

能を使って収入を得た経験のある修了生の割合が68%であること（2007年7月フォローアップ調査）は、投入が効率的に使用されたことを示している。

#### 4-4 インパクト

本プロジェクトにより、いくつかの正のインパクトが発現している。

上位目標「関係機関の協力により障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される」に関しては、プロジェクトは既に一部それを達成しつつある。技能訓練を受けることで、障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的参加が促進されている。

また、STC等プロジェクト関係者が、障害を持つ除隊兵士、および障害者一般に対する理解を深めたことが特筆される。障害を持つ除隊兵士の訓練生が、訓練期間中あるいは職場でしっかりと活動に参加することで、他の訓練生や講師、職場の上司や同僚、コミュニティの人々が彼らへの偏見をなくしてきている。除隊兵士に関していえば、出自の違う3グループ（Ex-RPF/RDF, Ex-FAR, Ex-AG）の融和にも本プロジェクトはある程度貢献している。訓練中に除隊兵士は、出自の違う除隊兵士の同級生や一般生徒とも交流を深めており、訓練修了後に協同組合を一緒に立ち上げる例も見られる。プロジェクトが作成したデータベースによると、訓練生の中で3グループの割合は、障害を持つ除隊兵士全体における各グループの割合とほぼ一致しており、適切といえる。今後はEx-AG（民兵）のさらなる帰還が予測されるので、元民兵が多く住む地域のSTCと協力関係を築くなど、元民兵の訓練生を増やす計画である。

コンゴ民主共和国のラジオ・オカピで本プロジェクトの紹介がされたところ（元民兵訓練生のインタビュー含む）、それを聞いて帰還した元民兵がいるとの話もある。

負のインパクトとしては、本プロジェクトでは慢性疾患を持つ除隊兵士を対象外としていることから、彼らの間に不満の声が上がっていることがあげられる。この点に配慮し、本評価調査団より、今後は、訓練の参加に支障がなく、訓練終了後に技能を活用できる可能性が高いとスクリーニングで判断された場合については、障害を持つ除隊兵士の中で慢性疾患を持つ者も本プロジェクトの支援の対象とすることを提言した。

#### 4-5 自立発展性

協力を行っているSTCにおいて技術面の自立発展性は高いが、財政面においては、自立発展性を高める取り組みが必要である。また、中央レベルにおいては、ルワンダ政府が障害を持つ除隊兵士の技能訓練支援のためにどのような仕組みを構築するかにかんよって自立発展性が見込みが異なってくる。

STCでは、本プロジェクトを通じて、障害を持つ除隊兵士を受け入れる体制および施設のハード面が整備された。各校に意欲があり資金が確保されれば、プロジェクト終了後も障害を持つ除



隊兵士の訓練を継続していける条件は整っている。各STCはその運営を本プロジェクトに依存してはいないが、障害を持つ除隊兵士に対する技能訓練の実施経費を本プロジェクトで負担しているため、プロジェクト終了後も障害を持つ除隊兵士に対する技能訓練を提供するための資金源を他に見出す必要がある。

中央レベルにおいては、RDRCの2008年以降の具体的な業務内容が現段階では確定していない。除隊兵士の技能訓練をどの機関が監督するのも未定だが、自立発展性を確保する仕組みづくりをその機関が行う必要がある。資金の確保・配分を含め、関係する各機関の協力体制を整備することが求められる。プロジェクト期間中にできることとしては、RDRCが各関係機関とプロジェクトの成果・ノウハウを共有し、障害を持つ除隊兵士の技能訓練が継続的に実施されていくよう努力することが必要である。

#### 4-6 貢献・阻害要因

##### 4-6-1 貢献要因

プロジェクトの実施プロセスにおいてプロジェクト関係者（JICA専門家、RDRC職員）がこまめにSTCを訪れて意見交換を行い、その結果をプロジェクト活動の改善に活かしてきたことが特筆できる。例えば、CFJ Gakoni の靴製作コース修了生の就業状況が良くないことを受けて、プロジェクトとCFJ Gakoni とで改善策として、靴の修理に関する訓練を実施することにより、就業機会の拡大を図った。

このように、RDRCとJICAは、障害を持つ除隊兵士の技能訓練に関係するその他機関と協力してきた。なお、2007年8月にSTCの所管が教育省（Ministry of Education: MINEDUC）から公共事業・労働省（Ministry of Public Service and Labour: MIFOTRA）に移行したのに伴い、プロジェクトは今後MIFOTRAと連携をしていく必要がある。

##### 4-6-2 阻害要因

RDRCが時限的な機関であること、障害を持つ除隊兵士の技能訓練に関わる機関が複数のセクターにわたっていることから、プロジェクト後の自立発展性を見据えての体制・関係構築が容易でない。プロジェクトは各機関と協力・連携を行ってきたが、RDRCの解体あるいは規模縮小後、障害を持つ除隊兵士の技能訓練をどの機関が一義的に担当するのか未定であるし、職業訓練校の管轄も最近MINEDUCからMIFOTRAに移管された（2007年8月）。このような現状を勘案し、プロジェクト期間中は、RDRCを一義的なカウンターパートとして活動しつつ、他機関との連携をさらに強化していくことが求められる。

現段階では、障害を持つ除隊兵士の技能訓練に関係する機関との連携をさらに強化していく

ことが求められる。具体的には、MINALOC とは障害者および地方レベルでの活動に関して、MIFOTRAおよびRwanda Workforce Development Authority (RWDA) とは技能訓練について連携を強化していく必要がある。各機関は、それぞれの政策・事業の中に障害を持つ除隊兵士の技能訓練を確実に含めることが求められる。

#### 4-7 結論

本プロジェクトは、プロジェクト終了時まで所期の目標を達成する見込みが高い。評価5項目の観点（妥当性、有効性、効率性、インパクト、自立発展性）からも、好ましい結果が出ている。2008年12月にプロジェクトが終了した後もルワンダ政府が障害を持つ除隊兵士の技能訓練を継続していくためには、中央政府レベルで、資金の確保・配分を含めたその実施体制を整備することが求められる。

## 第5章 PDM改訂

運営指導調査時には、RDRC、MINEDUC、MINALOC、STCが障害を持つ除隊兵士の技能訓練に関係していたが、その後、STCの所管がMINEDUCからMINALOCに移ったほか、今回の調査において、RDRCがRDRP終了後も存続する可能性があるとの発言（Chairman, RDRC）があり、本プロジェクト終了後の関係機関や業務分掌が明確でない。そのため、①本プロジェクトではRDRCとSTCの強化を行い（プロジェクト目標の変更）、②将来の関係機関を明記しない（上位目標の変更）という修正を加えた。これらを含む主な修正のポイントは以下のとおり。

	改訂前	改訂後、理由
上位目標	<u>関係機関</u> （RDRC, MINEDUC, MINALOC, STCs）との協力により障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される。	<u>障害を持つ除隊兵士の技能訓練およびSTCを所管する政府機関およびSTCとの協力により障害を持つ除隊兵士の経済的・社会的自立が促進される。</u> [理由] 本プロジェクト終了後、障害を持つ除隊兵士の技能訓練を所管する政府機関が不明であるため、関係機関の明記を避けた。
プロジェクト目標	技能訓練を通じ、障害を持つ除隊兵士がコミュニティに復帰するための経験・知識が蓄積され、 <u>関係機関</u> と共有される。	障害を持つ除隊兵士の技能訓練を通じたコミュニティへの復帰に関する経験・知識が <u>RDRCおよびSTC</u> において強化・共有される。 [理由] 上記と同様の理由により、本プロジェクト期間中においては、RDRCとSTCの強化を目標とすることとした。
成果の指標	1-1. 7つの技能訓練センターがバリアフリー化される。	1-1. 6つの技能訓練センターが <u>本プロジェクトにより</u> バリアフリー化される。 [理由] 10のパートナーSTCのうち4箇所がプロジェクト開始前に独自にバリアフリー化を済ませていたことが判明したため、残りの6箇所を本プロジェクトによりバリアフリー化することとした。
カウンターパート	プロジェクト・ディレクター： Coordinator（RDRP） プロジェクト・マネージャー： Chief Operations Officer（RDRP） カウンターパート： Training Coordinator（RDRP）、 Monitoring Staff（RDRP）、 Training Managers（STC）	<u>Chairman</u> （RDRC） Coordinator（RDRP）[Project Director] Chief Reintegration Officer（RDRP） [Project Manager] Training <u>Expert</u> （RDRP） Monitoring and Evaluation Officer（RDRP） <u>Medical Coordinator</u> （RDRP） <u>Directors</u> of STCs [理由] 追加、修正。

## 第6章 提言と教訓

### 6-1 提言

#### 6-1-1 残りのプロジェクト期間における活動への提言

- (1) RDRCのさらなる関与の必要性と本プロジェクト終了に向けた撤退戦略（exit strategy）の検討（中央レベルにおいて障害を持つ除隊兵士の技能訓練を支援するメカニズムの確認とこれら機関によるプロジェクト成果の活用）

RDRCとJICAは、本プロジェクトの終了に向けた撤退戦略を2008年3月まで（7月からの新予算年度に間に合うようにするため。その頃までには将来の組織的枠組みが明らかになる見込み：RDRC Coordinator）に策定する。RDRCは、プロジェクト終了後も、障害を持つ除隊兵士に対する技能訓練を中央レベルにおいて所管する機関および業務分掌が明確になり、プロジェクト成果が活用されるよう確認する。

- (2) ルワンダ国内の関係機関との本プロジェクト成果のさらなる共有（特にMIFOTRAとMINALOCの関与の強化およびこれら省庁を通じた他の関係機関への情報提供）

RDRCとJICAは本プロジェクトの成果について以下の関係機関に発信し、これら関係機関がそれぞれのパートナー機関と情報を共有できるようにする：

> MIFOTRAとパートナーSTCを通じ、他のSTCとの情報共有を行う。

> MIFOTRAに設置されたSub-committee on Promotion of Employment of Persons with Disabilitiesを通じ、政府機関、NGO、民間セクターとの情報共有を行う。

> MINALOCを通じ、障害者団体との情報共有を行う。

> RDRPドナーによる本プロジェクトの認知度を高める。

- (3) 他の政府機関との連携の強化（MINICOM等）

本プロジェクトでは、当初計画外の活動として、協同組合（cooperative）の設立に関するワークショップをMINICOMと協力して7回実施した。協同組合の設立は技能訓練修了後に卒業生が収入を得るアプローチとして有効と思われるほか、STCで知り合った訓練生同士（一般市民を含む）がグループを形成しており、障害を持つ除隊兵士の社会復帰を図るうえでの意義も大きい。このような取り組みをMINICOM等の政府機関と継続して実施していくことにより、ルワンダ政府内での本プロジェクトの認知度の向上も期待される。

#### (4) 障害を持つ除隊兵士の中で慢性疾患を持つ者への支援拡大

障害を持つ除隊兵士のうち、慢性疾患を持つ者は2.2%とされている。従来より、RDRCは彼らも本プロジェクトの対象としたいとしていた。過去のスクリーニングでは、これら慢性疾患を持つ障害者から不満の声が聞かれ、不公平感を募るといった負のインパクトが見られた。今後は、訓練への参加に支障がなく、訓練修了後に技能を活用できる可能性が高いとスクリーニングで判断された者は本プロジェクトによる支援の対象とする。

### 6-1-2 終了時評価に関する提言

#### (1) RDRC主体の評価実施

中間評価においては、RDRCの関与は①フィールド調査への部分的な同行、②JICA側調査団員が作成したミニッツ案へのコメント、③JCCの主催に限定されていた。終了時評価においては、Monitoring and Evaluation OfficerやTraining ExpertをはじめとするRDRCカウンターパートの関与を増やし、終了時評価を、ルワンダ側がプロジェクト終了後の体制を明確にし、各関係機関とのプロジェクト成果共有を図る機会とすることが望ましい。なお、評価実施時期までに、障害を持つ除隊兵士に対する技能訓練を所管するルワンダ政府内の組織体制が明らかになっている場合、関係機関からも調査への参加を得ることとする。

#### (2) 時期（2008年9～10月頃）

2007年3月に運営指導調査を、10～11月に中間評価を実施した結果、所期の成果がプロジェクト終了時に達成される見込みであること、また、本プロジェクトのフェーズ2が計画されていないことに鑑み、終了時評価の実施はプロジェクト終了2～3カ月前の2008年9～10月頃が適当と思われる。

### 6-1-3 プロジェクト終了後の協力の方向性に関する提言

#### 6-1-3-1 ルワンダ政府およびJICAに対する提言

(1) RDRC、MINALOCおよび公共事業・労働省は、障害を持つ除隊兵士の技能訓練の資金を確保するため、Vulnerable Support Window（社会的弱者の支援基金）や地方政府の資金、他の援助機関等パートナーからの資金を調達する努力をすることが望ましい。

(2) ルワンダ政府とJICAは、障害を持つ除隊兵士に対する技能訓練実施の経験に基づき、除隊兵士を含む障害者一般に対する協力の可能性を検討することが望ましい。



#### 6-1-3-2 考慮すべき事項

- (1) 障害を持つ除隊兵士5,109名（2007年3月末）のうち、技能訓練に関し本プロジェクトの支援を受けるのは約800名、RDRCの支援を受けるのは約1,000名。約3,300名の障害を持つ除隊兵士が技能訓練を受けられない。全員が技能訓練を必要・希望するものではないとしても、多くの障害を持つ除隊兵士がまだ受益できずにいる。
- (2) ルワンダにおける障害者の当事者組織を改編し（FACHR→National Council for Persons with Disabilities [仮名、後述の省令ではFederationと標記されている]の設置）、各障害の種別に代表を選び、Sector, District, Nationalの各レベルの行政に障害者のニーズを反映させようとする取り組みが開始された（2007年10月5-7日に選挙実施）。各レベルの代表者には障害を持つ除隊兵士も複数含まれており、障害の原因によらず、障害者は平等であるとのこと（National Council代表）。なお、この新体制は省令（Ministerial Order providing for the regulation of the federation, associations and centres responsible for welfare of disabled persons [No. 010/07.01 of 12/10/2007, 2007年12月15日発効]）により規定されている。
- (3) 上記の各レベルにおけるCouncilの代表者として選ばれた障害者の多くは、このような活動への参加経験がなく、組織運営、戦略策定、活動計画、活動資金獲得等、多くの面においてキャパシティが不足している。（National Council代表）
- (4) 予算的制約。技術協力プロジェクト経費の増額は見込めず、現行のプログラムに位置づけられていない新規案件の実施は困難。技術協力プロジェクト経費以外に可能性があるのは協力隊派遣とフォローアップ事業と思われる。（本プロジェクトが確実に成果を出していること、多くの障害を持つ除隊兵士がいまだ支援を受けていないことを勘案すると、予算的に可能であれば、RDRCの機能を引き継ぐ機関のキャパシティ強化を支援する協力を引き続き実施することも検討すべきと思われるが、予算的な制約に鑑み、より小規模な支援の方策について検討する。）

#### 6-1-3-3 協力概要（案）

##### (1) 協力の目的

本プロジェクトを通じて基盤を構築した障害者への技能訓練に対する継続的支援、および再構築された障害者当事者組織とSTCとの連携の促進により、除隊兵士を含む障害者の社会的・経済的な社会参加を側面支援する。

## (2) 協力の内容

[協力対象] 本プロジェクトのパートナーSTC（バリアフリー化工事済み）：現時点では、CFJ NyanzaやCFJ Rwabuyeが有力候補と思われる。		
協力隊	フォローアップ協力（短期専門家派遣については、技術協力案件としての実施も検討）	草の根無償
<ul style="list-style-type: none"> <li>- 特定分野（縫製、手工芸、マーケティング等）における技術的支援（訓練内容の改善、講師の能力強化、市場ニーズの訓練内容への反映、市場開拓等）</li> <li>- STCの所在するDistrict Council for PwDとのSTCの協力関係構築を促進。District Council for PwDと共同の啓発活動やDistrictの支援によりSTCに通う人の中に障害者を含める可能性についての検討等を支援する。</li> </ul>	<p>[短期専門家派遣]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 除隊兵士を含む障害者がSTCにおいて訓練を受講するために活用可能な資金源について調査を行う。(District Councilの予算、MIFOTRA等中央省庁の予算等)</li> <li>- 上記資金を活用して除隊兵士を含む障害者の訓練受講を可能とするメカニズムを検討し、ルワンダ側に提言する。</li> </ul> <p>[機材供与]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 訓練に必要な機材の供与。</li> </ul>	訓練機材供与

[協力対象] 本プロジェクトで協力を未実施のSTC：障害を持つ除隊兵士のうち、これまで技能訓練を受けていない者が多い地域のSTCを選ぶ。		
協力隊	フォローアップ協力	草の根無償
上記に同じ。	上記に加え、施設改修、バリアフリー化工事を検討。	上記に加え、施設改修、バリアフリー化工事を検討。

## 6-2 教訓

### 6-2-1 紛争後の地域における障害を持つ除隊兵士支援について

#### (1) 障害を持つ除隊兵士の特性

障害者の中でも除隊兵士はとりわけ以下のような特徴を持っていることが聞き取り等から明らかになっている。①一般障害者と比較して活動的である、②障害を負ったことにより兵士としての能力が失われたことに対する絶望感が強い、③特にEx-RPAの兵士については、現政権のために戦って障害を負ったとの認識を持っており、政府が自分たちに対して何か施すべきという意識が強い。また、Ex-AGについては（障害の有無にかかわらず）、94年以降十年以上の期間を、国外（ほとんどがコンゴ民東部）で民兵として生活するという特殊な環境下で過ごしている上、94年に発足した現在のルワンダの体制についての知識が低いという特徴がある。

## (2) 障害を持つ除隊兵士を対象とした技能訓練の意義

障害を持つ除隊兵士に対して技能訓練を提供することは、習得した技能を活用してその後の彼らの生活向上につなげていく以前に、技能訓練そのものを通じて一般市民（障害の有無にかかわらず）や他のグループの除隊兵士と知り合い、彼らの意識を兵士から文民に移行していくことに貢献していると考えられる。JICAによる支援を受けた障害を持つ除隊兵士からの聞き取りでは、同じ技能訓練コースを受講する除隊兵士は必ずしも兵士時代の知り合いではないケースが多いこと、また、協同組合と一緒に立ち上げるメンバーも、技能訓練を受講する前は知り合いではなかった例が多く、加えて一緒にコースを受講した一般市民も一緒に協同組合を立ち上げる例も見られている。

このように、技能訓練受講後に収入が短期的に増加していない場合にも、技能訓練センターにおける訓練に障害を持つ除隊兵士が参加することが、彼らの社会復帰の促進に貢献するという意義があると考えられる。

## (3) 障害を持つ除隊兵士支援のアプローチ

本プロジェクトは、ルワンダの平和の定着を推進する一環として取り組まれているRDRPに協力し、そのなかで空隙となっている障害を持つ除隊兵士の技能訓練という支援ニーズに対応するというで実施されている。従って、RDRPの進捗と並行しつつ、短期的に支援ニーズに対応していくということが優先であるが、一方で、遅れている一般障害者の技能訓練支援へのエントリーポイントという位置づけとしても意義深いと考えられる。

本プロジェクトは、STCのバリアフリー化、障害者への技能訓練にかかるTOT等、一般障害者の技能訓練へ門戸を開く契機となるような活動も含んでいる。紛争後の社会には、概して障害者が存在するが、データや支援のための体制・資金が整備されていない状況で支援に着手するのは容易ではなく、除隊兵士のように一定程度支援環境が整備されているところから協力を行い、これを一般障害者支援にも活用していくというアプローチは有効と考えられる。

障害を持つ除隊兵士は心身はもちろんのこと、社会経済的にも多くの問題を抱えていることが多い。また、技能訓練を実施しているSTCも除隊兵士や障害者を受け入れることに慣れていない。本プロジェクトにおいては、訓練中、訓練後にプロジェクト関係者が頻繁に足を運び、タイムリーに個別の問題に対応するような実施体制をとっており、これは非常に有効であった。

## 6-2-2 平和構築へのインパクト

### (1) 異なるグループが同等に裨益することの重要性

RDRPにおいては、元国軍兵士（Ex-RPA/RDF）、元旧政府軍兵士（Ex-FAR）、元民兵（Ex-AG）を対象としており、部族間（現在はID上のツチとフツの区別は廃止されているが）の不平等感を発生・助長しないように配慮されている。JICAの協力においては、当初キガリと東部のSTCとしか協力関係を構築していなかったため、特にEx-AGの直接裨益者の割合が低いという点がRDRCからも指摘されていた。今年に入って、北部州のCFJ Kibaliにおいて協力を開始するとともに、キガリのGako有機農業研修センターにおいて西部州除隊兵士に対して研修を開始したことから、当該事業における直接裨益者の割合（Ex-RPA/RDF、Ex-FAR、Ex-AG = 78%、15%、7%）は、障害を持つ除隊兵士全体における三グループの割合（80%、13%、7%）とほぼ同等となった。

### (2) 民族和解の進捗

STC関係者から、除隊兵士の出自の違いによる対立が確認されるという発言はまったくなかった。STCの1つであるGako有機農業研修センター長からは、「除隊兵士は代表を決めて指揮命令系統をはっきりさせれば、他の受講生以上に組織だって行動し、出自を問わず団結する。対立するグループに所属していた除隊兵士同士が、紛争時のことについて話をしている光景を見かけることもある」との発言もあった。また、RDRC職員からは、除隊兵士に対しては敢えてEx-RDF、Ex-FAR、Ex-AGということを明示せずに対応しているとの発言があった。

一方、民兵の動員解除は依然として遅々と進まない。コンゴ東部の紛争は継続しており、これにルワンダ人民兵（FDLR：ルワンダ自由民主軍、Ex-AGとして帰還を期待されている人々）が関与していることは、MDRP（アフリカ地域動員解除・社会復帰プログラム）に提出された報告書で指摘されている。つまり、いまだコンゴ東部にいる民兵の動員解除とコンゴ民からの帰還の今後の見通しは、多分に政治的な側面を含んでいると考えられる。従って、RDRPと大湖地域の政治動向は直接的に影響し合っているといえる。そういう意味では、ルワンダにおいては、政治レベルで未だ大きな不安定要素を抱えていると考えざるを得ない。

## 付 属 資 料

1. ミニッツ（評価グリッド、改訂後PDMおよびPO、調査日程、  
主要面談者リストを含む）
2. 評価グリッド（結果含む）
3. 質問票に対する回答結果
4. 障害者団体の連合の組織改編について
5. 協同組合に関する情報



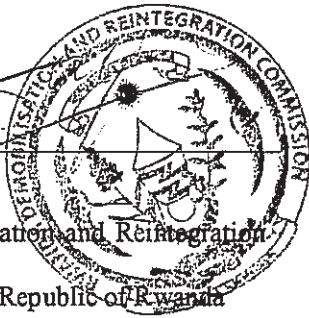
MINUTES OF MEETINGS BETWEEN  
THE JAPANESE MID-TERM EVALUATION TEAM AND  
INSTITUTIONS OF THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF RWANDA  
ON JAPANESE TECHNICAL COOPERATION FOR  
“THE SKILLS TRAINING FOR THE REINTEGRATION OF DEMOBILISED  
SOLDIERS WITH DISABILITIES” PROJECT

The Japanese Mid-Term Evaluation Team (hereinafter referred to as “the Team”), organised by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as “JICA”) conducted an analysis of the progress and achievements of the Project and developed recommendations jointly with the Rwandan institutions concerned.

The results of the analysis were encapsulated in the Summary Report of the Mid-Term Evaluation on the Project (hereinafter referred to as “the Report”) attached herewith. The Joint Coordination Committee discussed the major issues set out in the Report and agreed on its contents.

16th, 6th November, 2007

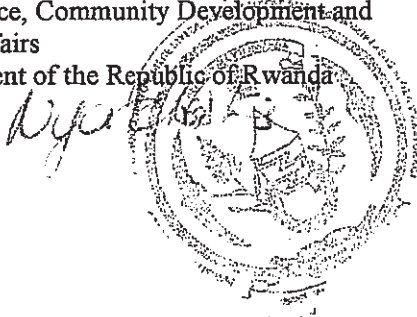
Jean Sayinzoga  
Chairman  
Rwanda Demobilisation and Reintegration  
Commission  
Government of the Republic of Rwanda



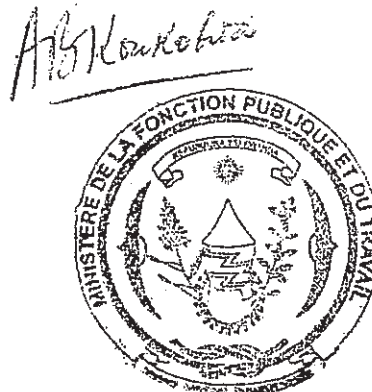
Iwao Tatsu  
Leader  
Mid-Term Evaluation Team  
Japan International Cooperation Agency



Marie-Christine Nyatanyi  
Minister of State for Community  
Development and Social Affairs  
Ministry of Local Government, Good  
Governance, Community Development and  
Social Affairs  
Government of the Republic of Rwanda



Angelina Muganza  
Minister of State for Labour  
Ministry of Public Service and Labour  
Government of the Republic of Rwanda



THE ATTACHED DOCUMENT

**SUMMARY REPORT OF THE MID-TERM EVALUATION ON  
“THE SKILLS TRAINING FOR THE REINTEGRATION OF  
DEMOBILISED SOLDIERS WITH DISABILITIES” PROJECT  
IN THE REPUBLIC OF RWANDA**

Table of Contents

I. INTRODUCTION .....	1
1. Overview of the Project .....	1
2. Objectives of Evaluation .....	1
3. Method of Evaluation .....	2
4. Members of the Evaluation Team .....	3
II. ACHIEVEMENTS .....	4
1. Inputs .....	4
2. Activities .....	5
3. Outputs .....	8
4. Project Purpose .....	10
5. Overall Goal .....	11
6. Implementation Process .....	13
III. EVALUATION BASED ON FIVE CRITERIA .....	14
1. Relevance .....	14
2. Effectiveness .....	15
3. Efficiency .....	16
4. Impact .....	16
5. Sustainability .....	17
6. Conclusion .....	17
IV. REVISION OF PROJECT DESIGN MATRIX .....	18
V. RECOMMENDATIONS AND LESSONS LEARNED .....	21

*Handwritten signatures and initials: C, M, J, S.*

## LIST OF ANNEXES

- Annex 1. Project Design Matrix (PDM) for Evaluation
- Annex 2. Evaluation Grid
- Annex 3. List of counterpart personnel
- Annex 4. Data of trainees
- Annex 5. Revised PDM
- Annex 6. Revised Plan of Operation (PO)
- Annex 7. Schedule of the mid-term evaluation
- Annex 8. List of agencies visited
- Annex 9. Joint Coordination Committee (JCC) attendants

## I. INTRODUCTION

### 1. Overview of the Project

In response to the request from the Government of the Republic of Rwanda for catering to the needs of the Demobilised Soldiers with Disabilities (hereinafter referred to as “DSwDs”), the Project was launched in December 2005 with a purpose of strengthening the Rwandan institutions’ expertise to reintegrate DSwDs into communities through skills training. The counterpart institution, the Rwanda Demobilisation and Reintegration Commission (hereinafter referred to as “RDRC”) and JICA have been carrying out various activities to 1) strengthen the capacity of Skills Training Centres (hereinafter referred to as “STC”) to accept persons with disabilities, 2) support DSwDs in acquiring vocational skills and 3) develop a system to accumulate information on STCs and DSwDs.

Note: The term “Demobilised Soldiers” was adopted by the Project, as it was the term used by the Rwanda Demobilisation and Reintegration Program (hereinafter referred to as “RDRP”) at the time of the inception of the Project and considered to include ex-armed groups as well as ex-soldiers. The term “ex-combatants”, which is better suited to describe the target group of the Project, became more widely used afterwards. To avoid confusion, the term “DSwDs” is used in the Report, however, it should be noted that ex-armed groups are included in DSwDs.

### 2. Objectives of Evaluation

The Project will be completed in December 2008. With the remaining period of the Project of approximately one year and two months, JICA dispatched the Team to the Republic of Rwanda to undertake the Mid-term Evaluation jointly with the Rwandan side. The objectives of the Mid-term Evaluation are as follows:

- (1) To review the progress of the Project activities and the achievement of the outputs of the Project to date.
- (2) To evaluate the Project based on the five evaluation criteria (relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability).
- (3) To develop recommendations on the Project implementation during the remaining Project period.
- (4) To revise the Project Design Matrix (PDM) and the Plan of Operation (PO) as needed.









- (5) To draw lessons learned from the Project for future technical cooperation concerning the reintegration of persons with disabilities into the society in post-conflict areas.

### 3. Method of Evaluation

In accordance with the JICA Project Evaluation Guidelines of January 2004, the Mid-term Evaluation of the Project was conducted in the following process:

Step 1: The Project Design Matrix (PDM) of 7 March 2007, which was agreed upon by both sides during the Consultative Mission Team's visit to the Republic of Rwanda, was adopted as the framework of the Mid-term Evaluation exercise, and the Project achievement was assessed vis-à-vis respective Verifiable Indicators.

Step 2: Analysis was conducted on the factors that promoted or inhibited the achievement levels including matters relating to both the Project design and Project implementation process.

Step 3: An assessment of the Project results was conducted based on the five evaluation criteria: "relevance", "effectiveness", "efficiency", "impact" and "sustainability".

Step 4: Recommendations for the Project stakeholders for the remaining implementation period and lessons learned were developed.

Step 5: The PDM and PO were revised for the remaining project period based on the results of the evaluation.

The definition<sup>1</sup> of the five evaluation criteria applied in the analysis for the Mid-term Evaluation is given in the table below.

**Table: Definition of the Five Evaluation Criteria for Evaluation**

Five Evaluation Criteria	Definition as per the JICA Evaluation Guidelines
1. Relevance	Relevance of the Project is reviewed by the validity of the Project Purpose and Overall Goal in connection with the Government development policy and the needs of the target group and/or ultimate beneficiaries in Rwanda.
2. Effectiveness	Effectiveness is assessed to what extent the Project has achieved its Project Purpose, clarifying the relationship between the Project

<sup>1</sup> "JICA Project Evaluation Guideline (revised: January 2004)," Office for Evaluation and Post Project Monitoring, JICA.



	Purpose and Outputs.
<b>3. Efficiency</b>	Efficiency of the Project implementation is analyzed with emphasis on the relationship between Outputs and Inputs in terms of timing, quality and quantity.
<b>4. Impact</b>	Impact of the Project is assessed in terms of positive/negative, and intended/unintended influence caused by the Project.
<b>5. Sustainability</b>	Sustainability of the Project is assessed in terms of institutional, financial and technical aspects by examining the extent to which the achievements of the Project will be sustained after the Project is completed.

### 3. Members of the Evaluation Team

#### (1) Japanese side

Mr. Iwao TATSUMI	Leader	Resident Representative, JICA Rwanda Office
Ms. Eri KOMUKAI	Support for Demobilised Soldiers	Senior Advisor (Peace Building), Social Development Department, JICA
Ms. Emi AIZAWA	Cooperation Planning	Senior Program Officer, Social Security Team Group II, Human Development Department, JICA
Ms. Akemi SERIZAWA	Evaluation and Analysis	Social Development Specialist, Global Link Management, Inc.

#### (2) Rwandan side

Mr. Jean SAYINZOGA	Chairman, RDRC
Mr. Faustin RWIGEMA	Coordinator, RDRC
Mr. Francis MUSONI	Chief Reintegration Officer, RDRC
Mr. Venus MAKUZA	Economic Reintegration Officer, RDRC

## II. ACHIEVEMENTS

### 1. Inputs

#### 1.1 Inputs by the Rwandan side

##### 1) Counterpart personnel assigned to the Project

The Rwanda Demobilization and Reintegration Commission (RDRC) is the counterpart of the Project, as well as nine partner Skills Training Centres (STCs) as of October 2007. HVP Gatagara used to be a partner STC in addition to the nine. The list of counterpart personnel is shown in Annex 3.

##### 2) Provision of the project office and equipment

The Rwandan side provided an office space to the Project in the building of the Ministry of Local Government, Community Development and Social Affairs (MINALOC) together with the utilities.

##### 3) Operational expenses

The Rwandan side provided Frw580,540 as operational expenses of the Project. It included the cost for radio advertisements of screening for skills training (Frw180,540) and a part of the cost of barrier-free renovation of Gako Organic Farming Training Centre (Frw400,000).

#### 1.2 Inputs by the Japanese side

##### 1) Experts

A long term expert (Project Coordinator) was assigned to the Project on 25 March 2006.

##### 2) Operational expenses

The operational expenses of the Japanese side amounted to Frw220 million since the beginning of the Project up to the end of September 2007. The details are shown in the table below.

#### Operational expenses (Japanese side)

Japanese fiscal year	Total (Frw)	Barrier-free renovations	Skills training	Starter kits	ToTs (incl. a third-country expert as a trainer)
JFY2005 (4Q)	30,551,765	0	15,062,828	8,464,600	0
JFY2006	134,439,744	13,003,322	72,899,835	9,526,860	6,130,847
JFY2007 (1Q+2Q)	54,836,244	0	45,904,932	3,413,600	111,000
<b>Total</b>	<b>219,827,753</b>	13,003,322 (5.9%)	133,867,595 (60.9%)	21,405,060 (9.7%)	6,241,847 (2.8%)

## 2. Activities

The Team confirmed that the Activities of the Project have steadily been carried out as planned in the PDM.

**Achievement of Activities under Output 1: "STC's capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened."**

The Activities under Output 1 have been carried out as planned.

### Achievement of activities under Output 1

Activities		Achievements
<i>1-1</i>	<i>Barrier-free renovations</i>	
1-1-1	To plan appropriate designs for barrier-free facilities and arrange renovation as required.	Renovation design and work arrangement were made for four STCs. <ul style="list-style-type: none"> <li>Amizero Training Centre (ATC) and CFJ Gakoni (Jan-May 2006)</li> <li>Gako Organic Farming Training Centre, CFJ Kibali, and CFJ Gakoni (repair) (Jun-Sept 2007)</li> </ul>
1-1-2	To supervise the renovation by contractors	Renovation works of CFJ Gakoni and ATC were supervised (Jun-Aug 2006)
1-1-3	To evaluate the outcome of barrier-free renovations for further improvement.	The outcomes of the barrier-free renovation works of CFJ Gakoni and ATC were evaluated (Sept. & Oct. 2006)
<i>1-2</i>	<i>Training of Trainers (ToTs)</i>	
1-2-1	To plan ToTs on development of curriculum and awareness-raising of skills trainings for PwDs	Three ToT sessions of these two themes were planned. <p><u>Curriculum development:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Curriculum development for eight courses (welding, carpentry, bricklaying, electronics, computer, plumbing, tailoring, tiling) (planned in May-July 2006).(ToT a)</li> <li>Organic farming training for a trainer in Agriculture of URA (planned in May 2007) (ToT c)</li> </ul> <p><u>Awareness raising:</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Awareness raising on skills training of persons with disabilities (planned in Dec. 2006-Feb. 2007) (ToT b)</li> </ul>
1-2-2	To select trainers from the neighbouring countries	A ToT trainer for awareness raising on skills training of persons with disabilities was selected in South Africa (Jan-Feb. 2007).(ToT b)  (Local trainers)

		<ul style="list-style-type: none"> <li>The ToT of curriculum development was facilitated by a MINEDUC staff member and a consultant. (ToT a)</li> <li>The organic farming TOT was facilitated by a trainer of Gako Organic Farming Training Centre.(ToT c)</li> </ul>
1-2-3	To conduct ToTs	In total 174 participated in the ToT sessions. 1) Curriculum development of STCs: 39 (conducted in July-Sep. 2006) (ToT a) 2) Awareness raising on skills training of persons with disabilities. a) Consultative workshop: 93, b) ToT: 41 (conducted in Mar. 2007) (ToT b) 3) Organic farming training for a trainer in Agriculture of URA: 1 (conducted in May 2007) (ToT c)
1-2-4	To evaluate the outcome of ToTs for further improvement	Questionnaire surveys of the participants were conducted at the end of the ToT sessions to evaluate the outcomes.
	Other activities under Output 1	The results from the follow-up survey of graduates have been utilized to modify the training courses. Example: CFJ Gakoni recruited a new trainer in shoemaking to improve the quality of the course after the follow-up survey indicated that the graduates of this course were not successful in finding a job.

#### Achievement of Activities under Output 2: "DSwDs acquire vocational skills."

Skills training for DSwDs were/are being conducted in 10 partner STCs as planned.

#### Achievement of Activities under Output 2

Activities		Achievements
2-1	To develop criteria for selecting trainees.	The criteria for selecting trainees were developed in June-Dec 2006. Some were based on the existing criteria at STCs with necessary modifications.
2-2	To select the STCs that accept DSwDs.	10 STCs were selected (six in the stage of Project formulation before the Project period, four during the Project period)
2-3	To provide information on skills training to DSwDs	Notices to invite DSwDs to screening of skills training were broadcasted on radio 2-3 weeks before the screening.
2-4	To select trainees	Trainees were selected on the following dates: ATC: 1st batch 10/4/06, 2nd 23/10/06, 3rd 2/7/07

Handwritten notes and signatures: "C", "Aly", "2", "15".

		<p>AGHR: 1st 11/1/06, 2nd 18/4/07          URA: 1st 13/2/06, 2nd 9/10/06, 3rd 24/7/07          CFJ Gakoni: 1st 1/11/06, 2nd 15/2/07          Gatagara: 1st 18/1/06          RNC: 1st 5/2/07, 2nd 16/5/07, 3rd 18/7/07, 4th 25/9/07          CFJ Kibali: 1st 5/7/07          CFJ Nyanza: 1st 5/7/07          CFJ Rwabuye: 19/7/07          Gako: 1st 24/7/07</p>
2-5	To provide the skills training in STCs	<p>Training courses were/are being conducted in 10 STCs.</p> <p>ATC: 1st batch 10/4/06 – 6 months or 1 year, 2nd 23/10/06-6 months, 3rd 2/7/07-6 months          AGHR: 1st 11/1/06-1 year, 2nd 18/4/07-10 months          URA: 1st 13/2/06-6 months, 2nd 9/10/06-6 months, 3rd 24/7/07-6 months          CFJ Gakoni: 1st 1/11/06-1 year, 2nd 15/2/07-1 year          Gatagara: 1st 18/1/06-1 year          RNC: 1st 5/2/07-3 months, 2nd 16/5/07-3 months, 3rd 18/7/07-3 months, 4th 25/9/07-3 months          CFJ Kibali: 1st 5/7/07-6 months          CFJ Nyanza: 1st 5/7/07-6 months          CFJ Rwabuye: 19/7/07-6 months          Gako: 1st 24/7/07-1 month</p>
	Other activities under Output 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• The Project and STCs select the starter kits and give them to the trainees on graduation.</li> <li>• A follow-up survey of the graduates was conducted (July 2007).</li> <li>• Seminars on formation of cooperatives were held in collaboration with the Ministry of Commerce (MINICOM) seven times at six partner STCs.</li> <li>• A radio programme to feature the Project and interviews of Ex-AG trainees was broadcasted on Radio Okapi in Democratic Republic of Congo (DRC) by United Nations Mission in Democratic Republic of Congo (MONUC) (August 2007).</li> </ul>

CP                      AM                      2                      LS



**Achievement of Activities under Output 3: “A system to accumulate information on DSwdDs and STCs is developed.”**

The Activities under Output 3 have also been carried out steadily as planned. Information on the trainees are collected from RDRC and the partner STCs, and accumulated by the JICA expert in a database in collaboration with RDRC.

**Achievement of Activities under Output 3**

Activities		Achievements
3-1	To conduct monitoring and evaluation of the trained DSwdDs by the GoR/JICA project	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Progress report and Final Activity report are submitted from STCs to the Project.</li> <li>• A follow-up survey of the graduates was conducted (July 2007).</li> </ul>
3-2	To conduct a baseline survey on the situation of DSwdDs (their social, economic and physical situation)	Baseline data of DSwdD trainees are collected when they are enrolled to the course.
3-3	To develop a database on DSwdDs and STCs	Two databases on DSwdDs and STCs are being developed by the JICA expert in collaboration with RDRC and STCs
3-4	To develop a know-how to update the database periodically	The databases are updated by the JICA expert in collaboration with RDRC and STCs.

**3. Outputs**

The Outputs are likely to be achieved by the end of the Project period vis-a-vis the Indicators. The partner STCs have successfully developed capacity to accept and train DSwdDs. Positive outcomes are shown by the high completion rate and satisfactory employment situation. Regarding Output 3, it is expected that the databases will be effectively utilized after the Project ends by the relevant governmental bodies that are responsible for skills training of DSwdDs.

**Achievement of Output 1: “STC’s capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened.”**

Output 1 has almost been achieved vis-a-vis its Indicators. Six out of ten partner STCs are now equipped with barrier-free facilities and more than the target number of trainers participated in the ToTs to develop their capacity to accept persons with disabilities.

### Achievement of Output 1

	Verifiable Indicators	Achievements
1-1	Seven (7) STCs are renovated to be barrier-free facilities.	Amizero Training Centre (ATC) and CFJ Gakoni had barrier-free renovation by the Project (2006), which made six partner STCs among ten barrier-free. (Four partner STCs already had barrier-free facilities before the Project: AGAR, URA, RNC, Gatagara)
1-2	Sixty (60) participants receive ToTs.	In total 174 participated in the ToT sessions. 1) Curriculum development of STCs: 39 (conducted in July-Sep. 2006) 2) Awareness raising on skills training of persons with disabilities. a) Consultative workshop: 93, b) ToT: 41 (conducted in Mar. 2007) 3) Organic farming for the trainer in Agriculture of URA: 1 (conducted in May 2007)
1-3	ToTs are conducted three (3) times.	(as 1-2 above)

### Achievement of Output 2: "DSwDs acquire vocational skills."

Output 2 is highly likely to be achieved by the end of the Project. By the end of September 2007, about 600 DSwDs enrolled in the skills training courses. Since 93% of the past trainees successfully completed the training courses, it is also expected that the current and future trainees will have similar results, which will make the target number of graduates achievable.

Indicator 2-3 does not necessarily show that the graduates secured a sustainable source of income, but it can suggest that the skills training courses have been successful in opening up opportunities for trainees to some extent. The result of the follow-up survey showed that percentage of those who earned less than Frw10,000 per month was decreased from 62.1% (before training = baseline survey) to 50.5% (after training = follow-up survey).

### Achievement of Output 2

	Verifiable Indicators	Achievements
2-1	Eight hundred (800) DSwDs receive skills trainings.	Accumulated number of DSwDs who were/are being trained at the STCs is 598 as of 30 Sept. 2007. It includes 29 drop-outs, 9 who failed the final exams and 2 who died before completion of the training courses. (The details are shown in Annex 4)
2-2	Eight hundred (800) DSwDs graduate from STCs.	Accumulated number of DSwDs who graduated from the STCs is 256 as of 30

CO AM g SS

		Sept.2007. The completion rate is 92.8% <enrolled – (dropped out + failed the final exams + dead) / enrolled> (The details are shown in Annex 4)
2-3	Sixty percent (60%) of the trained DSwdDs by the GoR/JICA project generates income for self-support.	Among 138 respondents (out of 192 trainees who had graduated by the time of the follow-up survey conducted in July 2007, and excluding 10 URA graduates whose course was life skills training and not for vocational skills), 94 (=68%) had utilized the skills that they learned at the STCs. Percentage of those who earned less than Frw10,000 per month was decreased from 62.1% (before training = baseline survey) to 50.5% (after training = follow-up survey).
2-4	Number of the trained DSwdDs by the JICA project joins cooperatives and associations.	Among 138 graduates (as 2-3 above), 35 joined cooperatives or associations.

**Achievement of Output 3: “A system to accumulate information on DSwdDs and STCs is developed.”**

Output 3 is also likely to be achieved by the end of the Project vis-a-vis the Indicators. It is expected that the databases will be effectively utilized after the Project ends by the relevant governmental bodies that are responsible for skills training of DSwdDs.

**Achievement of Output 3**

	<b>Verifiable Indicators</b>	<b>Achievements</b>
3-1	Database on STCs is developed.	A database on STCs is being developed by the JICA expert in collaboration with RDRC and STCs
3-2	Database on DSwdDs is developed.	A database on DSwdD trainees is being developed by the JICA expert in collaboration with RDRC and STCs

**4. Project Purpose**

The Project Purpose is likely to be achieved by the end of the Project period. The methods of the skills training and barrier-free renovations have been developed by the Project in collaboration with STCs and relevant organizations, and the process has been shared among them. The Project is going to develop a manual to compile its experience by the end of the Project period and share it with other relevant organizations involved in skills training of DSwdDs. Regarding the partner STCs, they have strengthened expertise to provide skills training

*ce*      *AM*      *g*      *15*

for DSwDs to assist their reintegration in the society. They are likely to be able to continue it based on their experience if the management has willingness to do so and secures the budget after the end of the Project period.

**Achievement of Project Purpose: “Expertise to reintegrate DSwDs into communities through skills trainings is strengthened and shared with the concerned institutions.”**

Verifiable Indicators	Achievement
<p>1. Methods on the following topics are developed:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- How to monitor and follow-up the trained DSwDs (1)</li> <li>- How to find appropriate courses of skills trainings considering of levels of disabilities and opportunities of income (2)</li> <li>- How to develop the database on Skills Training Centres (STCs) (3)</li> <li>- How to conduct Training of Trainers (ToTs) (4)</li> <li>- How to make facilities barrier-free (5)</li> <li>- Aforementioned topics are compiled as the manual (6)</li> </ul>	<p>Experiences of the Project in these themes are being accumulated and are to be compiled as manuals by the end of the Project period.</p> <p>(1) A follow-up survey was conducted in July 2007. “Follow-up sheet” was developed by the Project in consultation with RDRC and JICA specialists. The result was analyzed by the JICA expert.</p> <p>(2) Screening of the candidates was conducted in collaboration with RDRC and STC trainers to match them to the courses taking the levels of disabilities into consideration.</p> <p>(3) Databases are being developed by the JICA expert in collaboration with RDRC.</p> <p>(4) ToT sessions were conducted by RDRC in collaboration with the JICA expert.</p> <p>(5) Two STCs were renovated for barrier-free with technical input by MINEDUC, STC trainers, District Offices and the JICA expert.</p> <p>(6) A manual is to be finalized by the end of the Project Period.</p>
<p>2. Facilities are improved by barrier-free renovations.</p>	<p>Two STCs were renovated for barrier-free by the Project with technical input by MINEDUC, STC trainers, District Offices and the JICA expert.</p>

## 5. Overall Goal

The achievement of Overall Goal depends on whether the mechanism to assist economic and social self-support of DSwDs is established and functions at the central government level after the Project ends in December 2008. RDRC is likely to continue its function after closing of the support by the Rwanda Demobilisation and Reintegration Programme (RDRP) Stage II in 2008, although the detailed responsibilities of RDRC after 2008 are to be determined including its role on skills training of DSwDs. The methods of monitoring, including the data for the Indicators of the Overall Goal below, need to be identified by the relevant governmental bodies. An organ to

support DSwdDs will be established under MINALOC according to “the law relating to the protection of disabled war veterans” published in 2007.

As far as the achievement in these aspects by the time of Mid-term Evaluation were conducted, it can be concluded that the skills training have made positive outcomes for DSwdDs both in their employment situation and social reintegration according to comparison of the data of the baseline surveys (at enrolment of each trainee) and those of the follow-up survey (conducted in July 2007 for 138 graduates), as well as the results of the interviews and observation of trainees and graduates during the Mid-term Evaluation mission.

**Achievement of Overall Goal: “The economic and social self-support of Demobilised Soldiers with Disabilities (DSwdDs) is promoted by the concerned institutions.”**

Verifiable Indicators	Achievement
1. Increase in the employment rate of DSwdDs	<p>(A system to monitor the employment rate of DSwdDs is to be established by the relevant governmental bodies.)</p> <p>(Experience of the Project)  <u>Baseline survey:</u>            Among 242 trainees surveyed at enrolment, 131 (=55%) was working either in agriculture, as self-employed or as employees.</p> <p><u>Follow-up survey:</u>            Among 138 respondents (out of 192 trainees who had graduated by the time of the follow-up survey conducted in July 2007, and excluding 10 URA graduates whose course was life skills training and not for vocational skills), 94 (=68%) had utilized the skills that they learned at the STCs.</p>
2. Improvement of the relationships between DSwdDs and family, neighbours, friends and social groups in communities.	<p>(A system to monitor the circumstances of social reintegration of DSwdDs is to be established by the relevant governmental bodies.)</p> <p>(Experience of the Project – some examples)  <u>Baseline survey:</u>            Good relationship with neighbours: 67%            Feeling treated inferior than other community members: 88%</p> <p><u>Follow-up survey:</u>            Better relationship with neighbours after training: 95%            Feeling better than before training: 82%</p>

*Handwritten signatures and initials: "CO", "AM", "J", "L.T."*



	<p><u>Observations during the evaluation mission:</u>          DSwDs made friends with civilians and other DSwDs from different groups during the skills training. Some have created cooperatives together.</p>
--	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

## 6. Implementation Process

During the implementation process of the Project activities, RDRC and JICA collaborated with other relevant organizations involved in issues of skills training and persons with disabilities. Since the management of skills training centres was transferred from the Ministry of Education (MINEDUC) to the Ministry of Public Service and Labour (MIFOTRA) in August 2007, it is essential that the Project develops collaboration with MIFOTRA.

In the current circumstances, the Project needs to strengthen collaboration with other governmental bodies responsible for each aspect of DSwD issues; namely with MINALOC for issues of persons with disabilities and to work together at local levels effectively, and with MIFOTRA and the Rwanda Workforce Development Authority (RWDA) for issues of skills training. Each institution is expected to mainstream issues of skills training of DSwDs in their policies and actions.

It is one of strong features of the JICA Project in the implementation process that the Project members often visit the partner STCs to have consultations, the results of which were incorporated into the activities. For example, as a follow-up of weak employment situation of the graduates from the shoemaking course of CFJ Gakoni, the Project and CFJ Gakoni had discussions to identify the strategies to improve the situation.

### III. EVALUATION BASED ON FIVE CRITERIA

#### 1. Relevance

The relevance of the Project is high in terms of the needs of DSwdDs and needs of the Rwandan society to reintegrate them as a process of peace building.

Government of Rwanda aims to promote consolidation, reconciliation and peace in the country. The Rwanda Demobilisation and Reintegration Programme (RDRP) Stage II, funded by the World Bank and other donors (Japan is not a part of it), has contributed to this process. To date 39,723 soldiers were already demobilised, which is 84% of the target number 47,000 (October 2007, RDRC). RDRP II assists reintegration process of ex-combatants through funding for income generating projects and provision of skills training among others, but the skills training is only for ex-combatants without disabilities.

In terms of the needs of persons with disabilities, ex-combatants or not, relevance of the Project is apparently high because of their vulnerability and need for support to be integrated in the society. National policies of Rwanda recognize their needs and two new laws “relating to protection of disabled persons in general” and “relating to the protection of disabled war veterans” were published earlier in 2007. The law “relating to the protection of disabled war veterans” does not articulate about skills training while it states that a disabled war veteran “has an opportunity to access education compatible with his or her disability” (Article 7) and “shall be given greater access to job opportunities in case of equal capacity or equal marks in competition” (Article 14). Establishment of an organ is mentioned in Article 5, a decree about which was recently passed in September 2007 and is expected to be issued shortly.

The Project is meaningful as it supports DSwdDs, who have not been able to benefit from other RDRP’s skills training activities due to lack of accessibility at STCs. There were 5,109 DSwdDs as of March 2007 (the number will increase with expected return of more Ex-AGs), and the Project aims to provide skills training up to 800 of them. DSwdDs have fewer options to support themselves when being reintegrated. The Project not only has created wider opportunities for DSwdDs by providing them with skills training but also has contributed to peace building in the country after the conflict as it encourages DSwdDs to establish good relationships in the society with civilians as well as with ex-combatants from different groups.

Also, the Project is relevant to the needs to support persons with disabilities (PwDs) in general.

CS

AWI

2

15

The barrier-free facilities and ToTs in awareness raising/curriculum development for PwDs have created a good basis for the partner STCs to accept them.

Regarding the selection of the target group, the Project has decided not to take up DSwDs with chronic illness because of estimated low return against the investment to their skills training. Taking the small percentage of DSwDs with chronic illness among DSwDs (2.2%) into consideration, the Project might want to extend its support to DSwDs with chronic illness under the condition that the candidate is capable to utilize the skills after training.

The Project was timely formulated and implemented as a response to the needs of reintegration of DSwDs. However, it could have been commenced quicker not to miss the opportunity to have access to the Vulnerability Support Window grant (VSW) and to have more intensive discussions with the RDRP donors.

In connection with Japan's assistance policy to Rwanda, the Project is relevant to the "Concept of Human Security" advocated by the Japanese government and its global assistance priority in peace building after conflict. Among JICA's assistance to Rwanda, the Project is unique in the sense that it directly contributes to peace building in the country.

## **2. Effectiveness**

The Project has been effective as it has successfully progressed towards the achievement of Project Purpose: "Expertise to reintegrate DSwDs into communities through skills training is strengthened and shared with the concerned institutions" of Rwanda.

Regarding the capacity development of the Rwandan institutions in provision of skills training for DSwDs, the STCs have accumulated experience in receiving DSwDs in aspects of curriculum development, barrier-free facilities as well as welcoming attitude so that DSwDs could be able to enjoy training together with other trainees from different backgrounds.

At the central level, RDRC and JICA have been working together and accumulated know-how to provide skills training for DSwDs throughout its process from selection of partner STCs, advertising of training courses, selection of trainees and follow-up of graduates. This process has also involved other relevant organizations such as MINEDUC, MINALOC and MINICOM as well as local authorities. It is required for the Government of Rwanda to establish a system involving relevant governmental bodies to share the experience of the Project and to utilize

them for implementation and further improvement of skills training of DSwdDs.

### **3. Efficiency**

The Project has been efficient as it has utilized existing resources (STCs, trainers and curriculums) and has successfully been producing the intended Outputs. Some additional activities (to supplement the original list in the PDM) were carried out to respond to the needs better in the implementation process, which is shown in the tables in the section of "Activities" above.

Particularly, the quantity and quality of the skills training of the DSwdDs are positive so far. Approximately 600 DSwdDs were/are being trained at the partner STCs, which is 75% of the target number by the end of the Project and about 12% of the DSwdDs currently registered with RDRC. High completion rate of trainees (93%) and high percentage of those who utilized at least once the skills they learned at STCs (68%) (follow-up survey, July 2007) show that the resources contributed to the Project have efficiently been utilized.

### **4. Impact**

The Project has made several positive impacts.

As stated in the section of Overall Goal "the economic and social self-support of Demobilised Soldiers with Disabilities (DSwdDs) is promoted by the concerned institutions", the Project has already begun to proceed to its achievement. The skills training have made positive outcomes for DSwdDs both in their economic and social reintegration.

Other positive impacts of the Project so far includes that people involved in the Project (STCs etc.) have been familiarized with the issue of DSwdDs and persons with disabilities in general. Positive performance and attitude of DSwdDs during the skills training sessions and in the workplaces removed, although the extent might differ, prejudices and biases of fellow trainees, trainers, employers, colleagues and people in the community. The Project has also contributed to reconciliation of three groups (Ex-RPF/RDF, Ex-FAR, Ex-AGs) to some extent. DSwdDs from different groups, as well as with civilians, have a good relationship during skills training, and often form cooperatives together. According to the database developed by the Project, the three groups are well represented among the trainees and in accordance with the proportion of each group among all DSwdDs. As more Ex-AGs are expected to return, the Project is planning to

take more Ex-AG trainees by developing a new partnership with STC(s) in the region where Ex-AGs are prominent.

Another positive impact is that a programme of Radio Okapi, which featured the Project and interviews of DSwd trainees, is said to have encouraged some Ex-AG soldiers to return.

It was observed that some DSwdDs with chronic illness felt excluded when they were screened out from the training, which was a negative impact of the Project.

## **5. Sustainability**

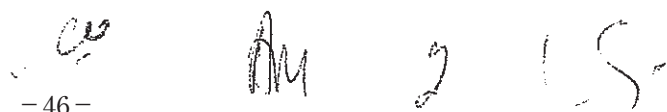
Sustainability of the Project is high at the level of the STCs, while that at the central level depends on the institutional arrangement of the Government of Rwanda.

At the level of STCs, training of DSwdDs can be sustainable in terms of the STC's technical capacity to accept and train them. It will largely depend on the availability of funding for skills training of DSwdDs (the training costs of DSwdDs are currently covered by the Project) and willingness of each STC.

At the central level, since RDRC's detailed functions after 2008 are not determined to date, sustainability needs to be guaranteed by the organization which will become primarily responsible for skills training of DSwdDs. A collaboration mechanism including financial arrangement needs to be established among relevant organizations. During the Project period, it is essential that RDRC makes sure to share with relevant organizations the outcomes and know-how of skills training of DSwdDs for its sustainable implementation at the central level.

## **6. Conclusions**

The Project has made progress towards the achievement of the Project Purpose by the end of the Project Period. The result of evaluation of its relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability was positive. A mechanism at the central level, including financial arrangement, to sustain support to DSwdDs in skills training would be required after the Project ends in December 2008.

Handwritten initials and signatures at the bottom of the page, including 'AM', '2', and 'LS'.



#### IV. REVISION OF PROJECT DESIGN MATRIX

The original Project Design Matrix (PDM) dated 7 March 2007 has been revised based on the evaluation results. The summary of comparison between the original PDM and the revised one is shown below.

	PDM as of 7 March 2007	Revised PDM
Overall Goal	The economic and social self-support of Demobilised Soldiers with Disabilities (DSwDs) is promoted by <u>the concerned institutions (RDRC, MINEDUC, MINALOC and STCs).</u>	The economic and social self-support of Demobilised Soldiers with Disabilities (DSwDs) is promoted by <u>government institutions concerned with skills training of DSwDs and STCs.</u> [Reason] The future institutional framework for skills training of DSwDs is not yet clear at the time of mid-term evaluation.
Verifiable Indicator for Overall Goal	1. <u>Increase in the employment rate of DSwDs</u>	1. <u>Percentage of DSwDs (graduates of STCs) who have generated income utilizing acquired vocational skills</u> [Reason] An indicator which focuses on the target group of the Project is more relevant to measure its overall goal.
Project Purpose	Expertise to reintegrate DSwDs into communities through skills trainings is strengthened and <u>shared with the concerned institutions.</u>	Expertise to reintegrate DSwDs into communities through skills trainings is strengthened and <u>shared among RDRC and STCs.</u> [Reason] As the future institutional framework for the provision of skills training to DSwDs is not clear at the moment, the Project will focus on the strengthening of RDRC and STCs. It is expected that RDRC will ensure that the expertise accumulated through the Project will be utilized by the institutions which will take over the responsibilities on skills training of DSwDs.
Verifiable Indicators for Project Purpose	<u>Methods on the following topics are developed:</u> - How to monitor and follow-up the trained DSwDs - <u>How to find appropriate courses of skills trainings considering of levels of disabilities and opportunities of income</u> - How to develop the database on Skills Training	<u>Methods on the following topics are developed and compiled as a manual:</u> - How to monitor and follow-up the trained DSwDs - <u>How to match DSwDs and appropriate skills training courses by conducting individual assessment</u> - <u>How to develop/modify curricula so that DSwDs acquire marketable skills</u> - How to develop the database on Skills Training Centres (STCs) - <u>How to carry out tracer surveys of</u>

	<p>Centres (STCs)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- How to conduct Training of Trainers (ToT)</li> <li>- <u>How to make facilities barrier-free</u></li> <li>- <u>Aforementioned topics are compiled as the manual.</u></li> </ul>	<p><u>graduates regularly, analyze the result and utilize it for the improvement of courses</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- How to conduct Training of Trainers (ToTs)</li> <li>- <u>How to assess the needs for renovation of facilities to be barrier-free and conduct renovation</u></li> </ul> <p>[Reason] More concrete expression has been adopted.</p>
Output	Output-3: A system to accumulate information on STCs and DSwDs is developed.	Output-3: <u>Output-3: A system to accumulate, analyze and utilize information on STCs and DSwDs is developed for improvement of skills training for DSwDs.</u> [Reason] The objective of the development of the system for utilizing information on STCs and DSwDs is made clear.
Verifiable Indicator for Output	1-1. <u>Seven (7) STCs are renovated to be barrier-free facilities.</u>	1-1. <u>Six (6) STCs are renovated to be barrier free facilities by the Project.</u> [Reason] Out of ten STCs which have been cooperating with the Project, four had already been made barrier-free prior to the implementation of the Project. The Project aims at renovating other six STCs to be barrier-free.
Activities		<p>The following activities have been added:</p> <p><u>1-1-4. To assist STCs in developing their capacity to carry out the activities above (1-1-1 to 1-1-3).</u></p> <p><u>2-1-4. To assist STCs in developing their capacity to carry out the activities above (2-1-1 to 2-1-3)</u></p> <p>[Reason] Importance on developing the capacity of STCs is highlighted.</p> <p><u>3-4. To carry out tracer survey of DSwDs who graduated STCs</u></p> <p><u>3-5. To analyze the result of the tracer survey (3-4)</u></p> <p><u>3-6. To improve skills training based on the analysis of the tracer survey results (3-5)</u></p> <p><u>3-7. To provide DSwDs with information on how to find employment/how to establish associations and cooperatives</u></p> <p>[Reason] Details of the activities have been added.</p>
Inputs	Rwandan side Project personnel: Project Director: Coordinator	Counterpart personnel: - <u>Chairman (RDRC)</u>

Handwritten signatures and initials are present at the bottom of the page, including a signature that appears to be "Au" and other illegible marks.

	(RDRP) Project Manager: Chief Reintegration Officer (RDRP) Other counterpart personnel: Training Coordinator (RDRP) Monitoring Staff (RDRP) Training Managers (6 STCs)	- Coordinator (RDRP) [Project Director] - Chief Reintegration Officer (RDRP) [Project Manager] - Training <u>Expert</u> (RDRP) - <u>Monitoring and Evaluation Officer</u> (RDRP) - <u>Medical Coordinator</u> (RDRP) - <u>Directors of STCs</u>
Important Assumptions for Activities	- STCs continue to be in operation. - DSwDs have willingness and capacity to absorb vocational skills. - Appropriate institutions to install a system to accumulate information are identified.	- STCs continue to be in operation. - <u>STC staff do not leave.</u> <u>Sufficient budget is secured by the Government of Rwanda.</u>
Important Assumptions for Outputs		The following has been added: - <u>Responsibilities for the issues of DSwDs and their reintegration, including provision of skills training, continue to be among the integral missions of governmental bodies.</u>

7

11

7

15-

## V RECOMMENDATIONS AND LESSONS LEARNED

### Recommendations for the Project in the remaining Project period

- RDRC and JICA should further advocate the outcomes of the Project to relevant organizations in order to share information with their partners; namely
  - For MIFOTRA and the partner STCs to share information with other STCs,
  - For MIFOTRA to share information through the subcommittee of promotion of employment of persons with disabilities,
  - For MINALOC to share information with disabled persons' organizations (DPOs),
  - For RDRP donors to be better informed of the Project.
- RDRC needs to maintain and strengthen active involvement in and commitment to the Project in order to familiarize them with know-how which has been accumulated through the Project, preparing for the completion of the Project.
- RDRC and JICA should prepare and share the exit strategy of the Project by March 2008 to assure the sustainability of the outcomes of the Project. RDRC should make sure to establish a mechanism to support skills training of DSwDs at the central level for its sustainability after the Project ends. Information on change/transfer of responsibilities of RDRC should be shared with JICA timely.
- The Project should maintain and strengthen collaboration with other relevant governmental bodies such as MINICOM for cooperative formation training sessions.
- MIFOTRA and STCs are recommended to establish a system for periodic follow-up surveys of graduates of STCs and to review and improve the training courses so that the trainees can obtain marketable skills.
- The Project is requested to consider possibility to extend its support to demobilised soldiers with disabilities and chronic illness for equal opportunities between them and DSwDs without chronic illness under the condition that the candidate is capable to utilize the skills after training.
- JICA should advocate the outcomes of the Project internally to utilize them for similar assistance programmes/projects in other countries and regions.

### Recommendations for GoR/JICA after the Project period

- RDRC, MINALOC and MIFOTRA are recommended to continue to seek sources of funding for skills training of DSwDs such as VSW and funding from the local authorities as well as other partners.
- Government of Rwanda and JICA are expected to consider possibility of further cooperation to support persons with disabilities.

CP

AM

J

S

### Lessons learned from the Project

- Timing is an essential issue for any support for reintegration of the demobilised soldiers in accordance with implementation of Disarmament, Demobilisation and Reintegration (DDR) process, otherwise justification to support demobilised soldiers decreases.
- Related activities for reintegration carried out by different donors and institutions should be coordinated and linked as necessary, to maximize output at whole. For instance, JICA's technical assistance could be connected with cash assistance (VSW or others) to expand coverage of assistance.
- Although the initial proposal to assist DSWDs on skills training was to establish the special institution specifically for DSWDs, current approach to utilize the existing STCs is found to be more reasonable in terms of i) quicker set up and faster commencing, and ii) sustainability after the Project ends.
- Since DSWDs are mostly vulnerable, and support for DSWDs on skills training is new to STCs, close and frequent consultations by the project with DSWDs as well as STCs are fundamental to deal with problems in timely manner and reflect later implementation of activities.
- In order to contribute to peacebuilding or consolidation of peace in post-conflict countries, DDR should take reconciliation among different sides of forces into account. In this Project, balanced representation of different groups (Ex-RDA/RDF, Ex-FAR and Ex-AG) has been taken into consideration for the selection of trainees in the spirit of national unity and reconciliation.

SP

AM

2/15/

PROJECT DESIGN MATRIX (PDM)

PROJECT TITLE: The Skills Training for the Reintegration of Demobilized Soldiers\* with Disabilities

PERIOD: Dec. 2005 - Dec. 2008

TARGET GROUP: Demobilised Soldiers with Disabilities (indirect beneficiaries: Persons with Disabilities)

TARGET AREA: The Republic of Rwanda

Date: 7 March 2007

Project Narrative Summary	Verifiable Indicators	Source	Important Assumptions
<p><b>Overall Goal:</b></p> <p>The economic and social self-support of Demobilised Soldiers with Disabilities (DSwDs) is promoted by the concerned institutions**.</p>	<p>1. Increase in the employment*** rate of DSwDs</p> <p>2. Improvement of the relationships between DSwDs and family, neighbours, friends and social groups in communities</p>	<p>- Follow-up report from the concerned institutions</p> <p>- Questionnaire for DSwDs</p> <p>- Baseline survey</p> <p>- Tracer survey</p>	
<p><b>Project Purpose:</b></p> <p>Expertise to reintegrate DSwDs into communities through skills trainings is strengthened and shared with the concerned institutions.</p>	<p>1. Methods on the following topics are developed:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- How to monitor and follow-up the trained DSwDs</li> <li>- How to find appropriate courses of skills trainings considering of levels of disabilities and opportunities of income</li> <li>- How to develop the database on Skills Training Centres (STCs)</li> <li>- How to conduct Training of Trainers (ToTs)</li> <li>- How to make facilities barrier-free</li> <li>- Aforementioned topics are compiled as the manual.</li> </ul> <p>2. Facilities are improved by barrier-free renovations.</p>	<p>- Information on DSwDs, STCs, ToTs and barrier-free</p> <p>- Project report</p> <p>- Report from the concerned institutions</p> <p>- Monitoring and follow-up sheet</p> <p>- Baseline survey</p> <p>- ToTs' report</p> <p>- Questionnaire from participants of ToTs</p> <p>- Report for barrier-free</p> <p>- Tracer survey</p> <p>- Distribution list of the manual</p>	<p>- The legal framework of protection of DSwDs is established and the access to employment is improved.</p> <p>- Peace in the community that DSwDs is reintegrated is secured and reconciliation is maintained.</p>
<p><b>Outputs:</b></p> <p>Output-1: STC's capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened.</p> <p>Output-2: DSwDs acquire vocational skills.</p>	<p>1-1. Seven (7) STCs are renovated to be barrier-free facilities.</p> <p>1-2. Sixty (60) participants receive ToTs.</p> <p>1-3. ToTs are conducted three (3) times.</p> <p>2-1. Eight hundred (800) DSwDs receive skills trainings.</p> <p>2-2. Eight hundred (800) DSwDs graduate from STCs.</p>	<p>- Project report</p> <p>- Report from the concerned institutions</p> <p>- Report from STCs</p> <p>- Monitoring and follow-up sheet</p> <p>- Baseline survey</p> <p>- ToTs' report</p> <p>- Questionnaire from participants of ToTs</p>	
<p>Output-3: A system to accumulate information on STCs and DSwDs is developed.</p>	<p>2-3. Sixty percent (60%) of the trained DSwDs by the GoR/JICA project generates income for self-support.</p> <p>2-4. Number of the trained DSwDs by the JICA project joins cooperatives and associations.</p> <p>3-1. Database on STCs is developed.</p> <p>3-2. Database on DSwDs is developed.</p>	<p>- Report for barrier-free</p> <p>- Tracer survey</p>	
<p><b>Activities:</b></p> <p>1. STCs' capacity to accept PwDs is strengthened.</p> <p>1-1. Barrier-free renovations</p> <p>1-1-1. To plan appropriate designs for barrier-free facilities and arrange renovation as required</p> <p>1-1-2. To supervise the renovation by contractors</p> <p>1-1-3. To evaluate the outcome of barrier-free renovations for further improvement</p> <p>1-2. Trainings of Trainers (ToTs)</p> <p>1-2-1. To plan ToTs on development of curriculum and awareness-raising of skills trainings for PwDs</p> <p>1-2-2. To select trainers from the neighbouring countries</p> <p>1-2-3. To conduct ToTs</p> <p>1-2-4. To evaluate the outcome of ToTs for further improvement</p> <p>2. DSwDs acquire vocational skills.</p> <p>2-1. To develop criteria for selecting trainees</p> <p>2-2. To select the STCs**** that accept DSwDs</p> <p>2-3. To provide information on skills trainings to DSwDs</p> <p>2-4. To select trainees</p> <p>2-5. To provide the skills trainings in STCs</p> <p>3. A system to accumulate information on DSwDs and STCs is developed.</p> <p>3-1. To conduct monitoring and evaluation of the trained DSwDs by the GoR/JICA project</p> <p>3-2. To conduct a baseline survey on the situation of DSwDs (their social, economic and physical situation)</p> <p>3-3. To develop a database on DSwDs and STCs</p> <p>3-4. To develop a know-how to update the database periodically</p>	<p><b>Inputs:</b></p> <p>Japanese side:</p> <p>Long-term expert: Project Coordinator (one person)</p> <p>Short-term experts: ToT trainers from neighbouring countries</p> <p>Project expenses:</p> <p>Equipment: Barrier-free renovations in STCs</p> <p>Rwandan side:</p> <p>Project personnel:</p> <p>Project Director, Coordinator (Rwanda Demobilisation and Reintegration Program (RDRP))</p> <p>Project Manager: Chief Operations Officer (RDRP)</p> <p>Counterparts: Training Coordinator (RDRP), Monitoring Staff (RDRP), Training Managers (STCs)</p> <p>Facilities for ToTs:</p> <p>Administrative offices</p> <p>An office room for JICA experts</p> <p>A meeting room for the Project</p> <p>Office equipment</p> <p>Running expenses and consumable supplies for the equipment</p>	<p>- STCs continue to be in operation</p> <p>- DSwDs have willingness and capacity to absorb vocational skills.</p> <p>- Appropriate institutions to install a system to accumulate information are identified.</p>	
			<p><b>Pre-conditions:</b></p> <p>- Counterparts continue to be in operation.</p> <p>- Other donors supporting RDRP continue funding the program.</p> <p>- Security in Rwanda and neighbouring countries is not deteriorated.</p>

\* Demobilised Soldiers consist of Ex-RDF soldiers, Ex-FAR soldiers and Ex-Armed Group combatants.

\*\* The concerned institutions include RDRP, MINEDUC, MINALOC and STCs.

\*\*\* The employment includes self-employment.

\*\*\*\* STCs include STC in the Western Province.

Handwritten signatures and initials: "AM", "2", "15-"



Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Document Review	Interviews/Questionnaire survey of counterparts	Interviews/Questionnaire survey of expert(s)	Interviews/Questionnaire survey of beneficiaries (STCs, trainees/graduates)	Interviews of other organizations	Discussions in the Japanese side	Discussions between the Rwandan and Japanese sides		
Performance 1. Achievement	Inputs by the Rwandan side	Counterpart personnel	X								
		Operational expenses	X								
	Inputs by the Japanese side	Office, equipment	X								
		Expert(s)	X								
	Activities	Equipment	X								
		Operational expenses	X								
		Progress of activities	X	X	X						
	Achievement of Outputs "STC's capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened."  Output 1: "STC's capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened."  Output 2: "DSwDs acquire vocational skills."  Output 3: "A system to accumulate information on STCs and DSwDs is developed."	Obstacles experienced	Obstacles experienced	X	X	X					
		Measures taken	Measures taken and results	X	X	X					
		Output 1: "STC's capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened."	Indicator 1-1: Seven (7) STCs are renovated to be barrier-free facilities.	Indicator 1-1: Seven (7) STCs are renovated to be barrier-free facilities.	X	X	X	X			
			Indicator 1-2: Sixty (60) participants receive ToTIs.	Indicator 1-2: Sixty (60) participants receive ToTIs.	X	X	X	X			
		Output 2: "DSwDs acquire vocational skills."	Indicator 1-3: ToTIs are conducted three (3) times.	Indicator 1-3: ToTIs are conducted three (3) times.	X	X	X	X			
			Other achievements	Other achievements		X	X	X			
Output 3: "A system to accumulate information on STCs and DSwDs is developed."		Indicator 2-1: Eight hundred (800) DSwDs receive skills trainings.	Indicator 2-1: Eight hundred (800) DSwDs receive skills trainings.	X	X	X	X				
		Indicator 2-2: Eight hundred (800) DSwDs graduate from STCs.	Indicator 2-2: Eight hundred (800) DSwDs graduate from STCs.	X	X	X	X				
		Indicator 2-3: Sixty percent (60%) of the trained DSwDs by the GoR/JICA project generates income for self-support.	Indicator 2-3: Sixty percent (60%) of the trained DSwDs by the GoR/JICA project generates income for self-support.	X	X	X	X				
		Indicator 2-4: Number of the trained DSwDs by the JICA project joins cooperatives and associations.	Indicator 2-4: Number of the trained DSwDs by the JICA project joins cooperatives and associations.	X	X	X	X				
	Other achievements	Other achievements		X	X	X					
	Indicator 3-1: Database on STCs is developed.	Indicator 3-1: Database on STCs is developed.	X	X	X	X					
	Indicator 3-2: Database on DSwDs is developed.	Indicator 3-2: Database on DSwDs is developed.	X	X	X	X					
	Other achievements	Other achievements		X	X	X					

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Document Review	Interviews/Questionnaire survey of counterparts	Interviews/Questionnaire survey of expert(s)	Interviews/Questionnaire survey of beneficiaries (STCs, trainees/graduates)	Interviews of other organizations	Discussions in the Japanese side	Discussions between the Rwandan and Japanese sides
Achievement of Project Purpose	Project Purpose: "Expertise to reintegrate DSWDs into communities through skills trainings is strengthened and shared with the concerned institutions."	Indicator 1: Methods on the following topics are developed: - How to monitor and follow-up the trained DSWDs - How to find appropriate courses of skills trainings considering of levels of disabilities and opportunities of income - How to develop the database on Skills Training Centres (STCs) - How to conduct Training of Trainers (ToTs) - How to make facilities barrier-free - Aforementioned topics are compiled as the manual.	X	X	X	X			
			X	X	X	X			
Other achievements		Indicator 2: Facilities are improved by barrier-free renovations.	X	X	X	X			
2. Implementation process	Management system	Number, technical areas, skills, experience, position, etc.	X	X	X				
2. Implementation process	Counterpart personnel assigned to the Project	Process of decision making	X	X	X			X	X
		Monitoring system	X	X	X		X	X	X
		How the result of monitoring is utilized	X	X	X		X	X	X
		How the PDM and FO are utilized	X	X	X		X	X	X
		How the PDM and FO were revised	X	X	X		X	X	X
		Communication between the Project members (Japanese expert and Rwandan counterparts)		X	X				
		Relationship with the JICA offices (Rwanda, Kenya, HQ)		X	X			X	
		Relationship with the Rwandan partner organizations		X	X			X	
		How transfer of technology is implemented		X	X			X	
		Participation of Rwandan managers in the Project		X	X			X	
Ownership	Input by the Rwandan side	Financial and in-kind inputs and human resources	X	X					

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Document Review	Interviews/Questionnaire survey of counterparts	Interviews/Questionnaire survey of expert(s)	Interviews/Questionnaire survey of beneficiaries (STCs, trainees/graduates)	Interviews of other organizations	Discussions in the Japanese side	Discussions between the Rwandan and Japanese sides
	Participation of Rwandan project members Maintenance of the equipment provided by the Project	Participation of Rwandan project members Maintenance of the equipment provided by the Project	X	X	X	X			
	Collaboration with other projects/activities	Collaboration with other cooperation projects/activities of Japan	X	X	X		X		
	Others	Collaboration with other donors Other issues in the implementation process	X	X	X		X		

## Five evaluation criteria

I. Relevance	Necessity	Relevance to the needs of Rwanda	Situation of disarmament/demobilization/reintegration and people with disabilities in Rwanda.	Document Review	Interviews/Questionnaire survey of counterparts	Interviews/Questionnaire survey of expert(s)	Interviews/Questionnaire survey of beneficiaries (STCs, trainees/graduates)	Interviews of other organizations	Discussions in the Japanese side	Discussions between the Rwandan and Japanese sides
		Relevance to the needs of the target group	Needs of ex-combatants with disabilities and ministries/institutions/training centres etc. Different needs of different groups (ex-RDF, ex-FAIR, ex-AG)	X	X	X	X	X	X	X
	Priority	Relevance to the national policy of Rwanda	National development policies, policies on DDR and people with disabilities in Rwanda	X	X	X		X	X	
		Relevance to the Japan's development assistance policy to Rwanda	Japan's assistance policies to Rwanda (including JICA's development assistance program) and priority areas	X		X		X	X	
	Appropriateness as a strategy	Appropriateness of the Project Purpose, Outputs, selection of the counterpart organization and the target group	Appropriateness of the Project Purpose and Outputs as the strategy to respond to the identified needs	X	X	X	X		X	
			Logic between Activities → Outputs → Project Purpose → Overall Goal	X	X	X	X	X	X	X
			Comparative advantage of Japan	X	X	X		X	X	X
			Process of selection of the counterpart organization and the target group	X	X	X		X	X	X
	Others	Change of political, economic and social environment around the Project	Political, economic and social change after the Project started	X	X	X	X	X	X	X

Topics	Evaluation questions		Information to be collected	Document Review	Interviews/Questionnaire survey of counterparts	Interviews/Questionnaire survey of expert(s)	Interviews/Questionnaire survey of beneficiaries (STCs, trainees/graduates)	Interviews of other organizations	Discussions in the Japanese side	Discussions between the Rwandan and Japanese sides
2. Effectiveness	To what extent the Project Purpose is likely to be achieved	To what extent it is expected that "Expertise to reintegrate DSWDs into communities through skills trainings is strengthened and shared with concerned institutions."	Indicator 1: Methods on the following topics are developed. --- Indicator 2: Facilities are improved by barrier-free renovations.	X	X	X	X			
		Factors that might obstruct achievement of the Project Purpose	Obstacles and measures taken	X	X	X	X		X	
3. Efficiency	Causality between the Outputs and the Project Purpose	Logic between the achievement of the Outputs and the Project Purpose	Causality between the Outputs and Project Purpose	X	X	X	X		X	
		Whether the Important Assumption is applicable. What measures are taken if it is not met. Any other possible Important Assumptions.	(there is no Important Assumption between Outputs and Project Purpose) Other possible Important Assumptions and their effect on the Project	X	X	X		X		X
	Achievement of the Outputs	Whether the Outputs have been achieved according to the plan	The extent to which the Outputs have been achieved.	X	X	X	X			
	Causality between the Activities and the Outputs	Obstacles to the achievement of the Outputs	Obstacles and measures taken	X	X	X	X			
		Whether the Activities were sufficient to achieve the Outputs	Analysis of the Activities and the level of achievement of the Outputs	X	X	X	X		X	
Appropriateness of the Inputs	Whether the Inputs were sufficient to achieve the Outputs	Whether the Important Assumption is applicable. What measures are taken if it is not met. Any other possible Important Assumptions.	IA1: STCs continue to be in operation IA2: DSWDs have willingness and capacity to absorb vocational skills. IA3: Appropriate institutions to install a system to accumulate information are identified.	X	X	X	X		X	
		Other possible Important Assumptions and their effect on the Project	Other possible Important Assumptions and their effect on the Project	X	X	X	X		X	
		Whether the quantity, quality, timing of the Inputs were appropriate. Whether these were utilized for the Activities.	Experts (number, technical areas, timing of dispatch) Equipment provided by the Japanese side (items, number, spec, price, quality, timing) Operational expenses provided by the Japanese side (amount, timing)	X	X	X	X		X	X

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Document Review	Interviews/Questionnaire survey of counterparts	Interviews/Questionnaire survey of expert(s)	Interviews/Questionnaire survey of beneficiaries (STCs, trainees/graduates)	Interviews of other organizations	Discussions in the Japanese side	Discussions between the Rwandan and Japanese sides
4. Impact	To what extent the Overall Goal is likely to be achieved	Counterparts (number, technical areas, position, timing of assignment) Equipment provided by the Rwandan side (items, number, spec, price, quality, timing) Operational expenses provided by the Rwandan side (amount, timing) Indicator 1: Increase in the employment rate of DSWDs. Indicator 2: Improvement of the relationships between DSWDs and family, neighbours, friends and social groups of communities.	X	X	X	X	X	X	
	Causality	Obstacles to the achievement of the Overall Goal Logic between the Project Purpose and the Overall Goal Whether the Important Assumptions are still applicable.	X	X	X	X	X	X	
	Impact	Other possible Important Assumptions and their effect on the Project Examples of positive impacts in the counterpart organization Political, institutional, social and cultural impacts • Change of policies, laws, systems, etc. • Technical innovation • Impacts on different social groups (origin, class, ethnic groups, gender, etc.) Examples of negative impacts in the counterpart organization	X	X	X	X	X	X	X

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Document Review	Interviews/Questionnaire survey of counterparts	Interviews/Questionnaire survey of expert(s)	Interviews/Questionnaire survey of beneficiaries (STCs, trainees/graduates)	Interviews of other organizations	Discussions in the Japanese side	Discussions between the Rwandan and Japanese sides
5. Sustainability		<ul style="list-style-type: none"> <li>• Political, institutional, social and cultural impacts</li> <li>• Change of policies, laws, systems, etc.</li> <li>• Technical innovation</li> <li>• Impacts on different social groups (origin, class, ethnic groups, gender, etc.)</li> </ul>	X	X	X	X	X	X	
	Political sustainability	Political support to reintegration of ex-combatants and support to people with disabilities in Rwanda	X	X	X		X	X	
	Institutional sustainability	Organizational structure of relevant institutions: capacity to maintain the level of the activities after the Project ends.	X	X	X	X	X	X	
	Financial sustainability	Budget allocation of Rwanda	X	X	X	X	X	X	
	Technical sustainability	Whether the counterparts are likely to improve their skills so that they can perform the functions independently after the Project ends. Whether the products of the Project (regulation, documentation, skills of examination/operation and maintenance) will be utilized continuously after the Project	X	X	X	X	X	X	
		Contributing factors and obstacles	Contributing factors and obstacles	X	X	X	X	X	X
Whether the Project needs modification	Whether the Project Purpose is likely to be achieved	To be decided after analysis of information collected		X	X			X	X
	Needs of modification of Inputs, Activities and Outputs	ditto		X	X			X	X
	Needs of modification of the indicators and target	ditto		X	X			X	X
	Needs of modification of the important Assumptions	ditto		X	X			X	X
	Others	ditto		X	X			X	X



## List of counterpart personnel (as of October 2007)

## 1. Rwanda Demobilisation and Reintegration Commission (RDRC)

Name	Org.	Title	Function in the Project
Mr. Jean SAYINZOGA	RDRC	Chairman	
Mr. Faustin RWIGEMA	RDRC	Coordinator	Project Director
Mr. Francis MUSONI	RDRC	Chief Reintegration Officer	Project Manager
Mr. Gilbert TUGUME	RDRC	Training Expert	
Dr. Emanuel KAGAMBIRWA	RDRC	Medical Coordinator	
Mr. David SABITI	RDRC	Monitoring & Evaluation Officer	

## 2. Skills Training Centres (STCs)

Name	Training Centres	Title
Mr. John BIDERI	Amizero Training Centre (ATC)	Executive Director
Mr. Zacharie NKUNDIYE	Association Generale des Handicapes du Rwanda (AGHR)	President
Ms. Donatilla KANIMBA	Union Rwandaise des Aveugles (URA)	Executive Director
Mr. Protais MALIDADI	Centre de Formation des Jeunes (CFJ) Gakoni	Director
Mr. Pasa MWENENGANUCYE	Rwanda Network Computer (RNC)	Director of Administration and Finance
Mr. Eugene RUZINDANA	CFJ Kibali	Director
Mr. Simon MUDUMIRO	CFJ Nyanza	Director
Brother Jean Baptiste MUNYERAGWE	CFJ Rwabuye	Director
Mr. Richard MUNYERANGO	Gako Organic Faming Training Centre (GOFTC)	Managing Director



Trainees' List  
 RDRCA/JICA  
 "The Skills Training for the Reintegration of Demobilised Soldiers with Disabilities" Project

Summary		STCs	Course	Trainees				Total Trainees	Drop out	No Certificate	Dead	Only Software	Currently Studying	Graduates	Period
No.				1st Batch	2nd Batch	3rd Batch	4th Batch								
1	ATC	Electronic	6			9	15					9	6	6M	
		Tiling	12	6			18						18	6M	
		Carpentry	7				7						7	6M	
		Welding	15		11		26					41	15	6M	
		Brick-laying	9		12		21					12	9	6M	
2	AGHR	Plumbing	7		8		15					8	7	6M	
		Hotel Operation	3		3		6				3	3	1Y/6M		
		Sub Total	59	6	43	0	108	0	0	0	0	43	65	1Y/10M	
		Tailoring	25	20			45	5	1	1	20	19	20	1Y/10M	
		Electronic	27	27			54	3	4	5	0	47	39	1Y/10M	
3	URA	Sub Total	52	47	0	0	99	8	8	5	0	47	39	6M	
		Life Skills	8	8			16					6	16	6M	
		Leather Craft (Starterkits only)	1				1						1	6M	
		Sub Total	9	8	8	0	23	1	1	0	0	6	17	6M	
		Carpentry	4	1			5					1	3	1Y	
4	Gakoni	Welding	8	7			15	3				8	6	1Y	
		Brick-laying	2	3			5	2				2	1	1Y	
		Tailoring	8	11			19	1				10	8	1Y	
		Leather Craft	48	13			61	4	2			42	43	1Y	
		Sub Total	70	33	0	0	103	11	2	0	2	31	61	1Y	
5	Gatagara	Orthopaedics	10				10						10	1Y	
		Sub Total	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	10	3M	
		PC (Soft & Hard)	27	22	33	27	109	7	4	4	3	59	36	6M	
		Sub Total	27	22	33	27	109	7	4	0	3	59	36	6M	
		Welding	20				20					20	0	6M	
6	RNC	Cooking	10				10					10	0	6M	
		Sub Total	30	0	0	0	30	0	0	0	0	30	0	6M	
		Welding	15				15					15	0	6M	
		Brick-laying	15				15	1				14	0	6M	
		Plumbing	15				15	2				13	0	6M	
7	Kibali	Sub Total	45	0	0	0	45	3	0	0	0	42	0	6M	
		Carpentry	15				15					15	0	6M	
		Tailoring	16				16					16	0	6M	
		Brick-laying	10				10					10	0	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
8	Nyanza	Organic Farming	28				28						28	1M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	1M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
9	Rwabuye	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
10	Gako	Organic Farming	28				28						28	6M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	6M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
11	Gakoni	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
12	Gakoni	Organic Farming	28				28						28	6M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	6M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
13	Gakoni	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
14	Gakoni	Organic Farming	28				28						28	6M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	6M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
15	Gakoni	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
16	Gakoni	Organic Farming	28				28						28	6M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	6M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
17	Gakoni	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
18	Gakoni	Organic Farming	28				28						28	6M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	6M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
19	Gakoni	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
20	Gakoni	Organic Farming	28				28						28	6M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	6M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
21	Gakoni	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
22	Gakoni	Organic Farming	28				28						28	6M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	6M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
23	Gakoni	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	
24	Gakoni	Organic Farming	28				28						28	6M	
		Sub Total	28	0	0	0	28	0	0	0	0	0	28	6M	
		Hotel Operation	6				6						6	6M	
		Tailoring	80				80						80	6M	
		Leather Craft	62				62						62	6M	
25	Gakoni	Orthopaedics	10				10						10	6M	
		Sub Total	109				109						109	6M	
		Brick-laying	22				22						22	6M	
		Life Skills	10				10						10	6M	
		Sub Total	41	0	0	0	41	0	0	0	0	41	0	6M	

Project Design Matrix  
 Project Title: The Skills Training for the Reintegration of Demobilised Soldiers with Disabilities  
 Period: Dec.2005-Dec.2008  
 Target Group: Demobilised Soldiers with Disabilities (indirect beneficiaries: Persons with Disabilities)  
 Target Area: The Republic of Rwanda

Date: 6 November 2007

Project Narrative Summary		Verifiable Indicators	Source	Important Assumptions
<p><b>Overall Goal:</b>            The economic and social self-support of Demobilised Soldiers with Disabilities (DSwDs) is promoted by government institutions concerned with skills training of DSwDs and STCs.</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. Percentage of DSwDs (graduates from STCs) who have generated income utilising acquired vocational skills</li> <li>2. Improvement of the relationships between DSwDs and family, neighbours, friends and social groups in communities</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Follow-up report from the concerned institutions</li> <li>* Questionnaire for DSwDs</li> <li>* Baseline survey</li> <li>* Tracer survey</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* The legal framework of protection of DSwDs is established and the access to employment is improved.</li> <li>* Peace in the community that DSwDs is reintegrated is secured and reconciliation is maintained.</li> </ul>	
<p><b>Project Purpose:</b>            Expertise to reintegrate DSwDs into communities through skills trainings is strengthened and shared among RDRC and STCs.</p>	<p>Methods on the following topics are developed and compiled as a manual:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- How to monitor and follow-up the trained DSwDs</li> <li>- How to match DSwDs and appropriate skills training courses by conducting individual assessment</li> <li>- How to develop/modify curricula so that DSwDs acquire marketable skills</li> <li>- How to develop the database on Skills Training Centres (STCs)</li> <li>- How to carry out tracer surveys of graduates regularly, analyze the result and utilize it for the improvement of courses</li> <li>- How to conduct Training of Trainers (ToTs)</li> <li>- How to assess the needs for renovation of facilities to be barrier-free and conduct renovation</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>* Information on DSwDs, STCs, ToTs and barrier-free</li> <li>* Project report</li> <li>* Report from the concerned institutions</li> <li>* Monitoring and follow-up sheet</li> <li>* Baseline survey</li> <li>* ToT's report</li> <li>* Questionnaire from participants of ToTs</li> <li>* Report for barrier-free</li> <li>* Tracer survey</li> <li>* Distribution list of the manual</li> </ul>		
<b>Outputs:</b>				

<p><b>Output-1: STC's capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened.</b></p> <p><b>Output-2: DSwdDs acquire vocational skills.</b></p>	<p>1-1. Six (6) STCs are renovated to be barrier-free facilities by the Project.</p> <p>1-2. Sixty (60) trainers at STCs receive ToTs.</p> <p>1-3. ToTs are conducted three (3) times.</p> <p>2-1. Eight hundred (800) DSwdDs receive skills trainings.</p> <p>2-2. Eight hundred (800) DSwdDs graduate from STCs.</p> <p>2-3. Sixty percent (60%) of the trained DSwdDs by the GoR/JICA project generates income for self-support.</p> <p>2-4. Number of the trained DSwdDs by the JICA project joins cooperatives and associations.</p>	<p>* Project report</p> <p>* Report from the concerned institutions</p> <p>* Report from STCs</p> <p>* Monitoring and follow-up sheet</p> <p>* Baseline survey</p> <p>* ToT's report</p> <p>* Questionnaire from participants of ToTs</p> <p>* Report for barrier-free</p> <p>* Tracer survey</p>	<p>* Responsibilities for the issues of DSwdDs and their reintegration, including provision of skills training, continue to be among integral missions of governmental bodies.</p>
<p><b>Output-3: A system to accumulate, analyze and utilize information on STCs and DSwdDs is developed for improvement of skills training for DSwdDs.</b></p>	<p>3-1. Database on STCs is developed.</p> <p>3-2. Database on DSwdDs is developed.</p> <p>3-3. These databases are updated regularly by the STCs and RDRG.</p>		
<p><b>Activities</b></p>	<p><b>Inputs:</b></p>		

CS      BK      2-15

<p>1. STCs' capacity to accept PwDs is strengthened.</p> <p>1-1. Barrier-free renovations</p> <p>1-1-1. To plan appropriate designs for barrier-free facilities and arrange renovation as required</p> <p>1-1-2. To supervise the renovation by contractors</p> <p>1-1-3. To evaluate the outcome of barrier-free renovations for further improvement</p> <p>1-1-4. To assist STCs in developing their capacity to carry out the activities above (1-1-1 to 1-1-3)</p> <p>1-2. Training of Trainers</p> <p>1-2-1. To plan ToTs on development of curriculum and awareness-raising of skills trainings for PwDs</p> <p>1-2-2. To select trainers including some from the neighbouring countries</p> <p>1-2-3. To conduct ToTs</p> <p>1-2-4. To evaluate the outcome of ToTs for further improvement</p> <p>1-2-5. To assist STCs in their capacity to carry out the activities above (1-2-1 to 1-2-4)</p>	<p>Japanese side:</p> <p>Long-term expert: Project Coordinator (one person)</p> <p>Short-term experts: ToT trainers from neighbouring countries</p> <p>Project expenses:</p> <p>Equipment: Barrier-free renovations in STCs</p> <p>Rwandan side:</p> <p>Counterpart personnel:</p> <p>Chairman (Rwanda Demobilisation and Reintegration Commission: RDRC)</p> <p>Coordinator (Rwanda Demobilisation and Reintegration Programme: RDRP)</p> <p>[Project Director]</p> <p>Chief Reintegration Officer (RDRP) [Project Manager]</p> <p>Training Expert (RDRP)</p> <p>Monitoring and Evaluation Officer (RDRP)</p> <p>Medical Coordinator (RDRP)</p> <p>Directors of STCs</p> <p>Facilities for ToTs</p> <p>Administrative Offices</p> <p>An office room for JICA experts</p> <p>A meeting room for the Project</p> <p>Office equipment</p> <p>Running expenses and consumable supplies for the equipment</p>	<p>* STCs continue to be in operation</p> <p>* STC staff do not leave.</p> <p>* Sufficient budget is secured by the Government of Rwanda.</p>
<p>2. DSWDs acquire vocational skills.</p> <p>2-1. To develop criteria for selecting trainees</p> <p>2-2. To select the STCs that accept DSWDs</p> <p>2-3. To provide information on skills training to DSWDs</p> <p>2-4. To select trainees</p> <p>2-5. To provide the skills training in STCs</p>		

Handwritten marks and signatures at the bottom of the page, including a signature on the left and a large '5.' on the right.

## PLAN OF OPERATION (PO): The Skills Training for the Reintegration of Demobilised Soldiers with Disabilities Project

Date: 6 November 2007

Activities in Project Narrative Summary	2007		2008												
	Nov	Dec	Jan	Feb	Mar	Apr	May	Jun	Jul	Aug	Sep	Oct	Nov	Dec	
<b>1. Skills Training Centres' (STCs) capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened and shared among RDRC and STCs.</b>															
1-1. Barrier-free renovations															
1-1-1. To plan appropriate designs for barrier-free facilities and arrange renovation as required															
1-1-2. To supervise the renovation by contractors															
1-1-3. To evaluate the outcome of barrier-free renovations for further improvement															
1-1-4. To assist STCs in developing their capacity to carry out the activities above (1-1-1 to 1-1-3)															
1-2. Trainings of Trainers (ToTs)															
1-2-1. To plan ToTs on development of curriculum and awareness-raising of skills trainings for PwDs															
1-2-2. To select trainers including some from the neighbouring countries															
1-2-3. To conduct ToTs															
1-2-4. To evaluate the outcome of ToTs for further improvement															
1-2-5. To assist STCs in their capacity to carry out the activities above (1-2-1 to 1-2-4)															
<b>2. Demobilised Soldiers with Disabilities (DSwDs) acquire vocational skills.</b>															
2-1. To develop criteria for selecting trainees															
2-2. To select the STCs that accept DSwDs															
2-3. To provide information on skills trainings to DSwDs															
2-4. To select trainees															
2-5. To provide the skills trainings in STCs															
<b>3. A system to accumulate, analyze and utilize information on DSwDs and STCs is developed for improvement of skills training for DSwDs.</b>															
3-1. To conduct a baseline survey on the situations of DSwDs (their social, economic and physical situation)															
3-2. To develop a database on DSwDs and STCs															
3-3. To develop a know-how to update the database periodically															
3-4. To carry out follow-up survey of DSwDs who graduated STCs															
3-5. To analyze the result of the follow-up survey (3-4)															
3-6. To improve skills training based on the analysis of the follow-up survey results (3-5)															
3-7. To provide DSwDs with information on how to find employment/how to establish associations and cooperatives															



**MISSION TITLE : MID-TERM EVALUATION MISSION ON "THE SKILLS TRAINING FOR THE REINTEGRATION OF DEMOBILISED SOLDIERS WITH DISABILITIES" PROJECT**

**1. PURPOSE OF THE MISSION**

The mission aims at evaluating the relevance, effectiveness, efficiency, impact and sustainability of the above-mentioned project and the progress of activities based as well as developing recommendations on the project activities during the latter half of the project period. If necessary, existing Project Design Matrix (PDM) and Plan of Operation (PO) will be modified.

**2. MEMBER LIST**

	Name	Job title	Occupation	Period (Arr. – Dep.)
1	Mr. Iwao TATSUMI	Team Leader	Resident Representative, JICA Rwanda Office	Resident in Rwanda.
2	Ms. Eri KOMUKAI (SAITO)	Support for Demobilised Soldiers	Senior Adviser (Peacebuilding), JICA	28 October – 6 November
3	Ms. Emi AIZAWA	Cooperation Planning	Senior Program Officer Social Security Team Group II, Human Development Department, JICA	28 October – 6 November
4	Ms. Akemi <del>SERIZAWA</del> SERIZAWA	Evaluation and Analysis	Social Development Specialist, Global Link Management	22 October – 7 November

**3. TENTATIVE SCHEDULE**

Date	Time	Activities	Accommodation
21 Oct. (Sun.)	12:45	[Serizawa] - Arrival in Kigali (ET801)	Kigali
22 Oct. (Mon.)	9:00	- Meeting at JICA Office (Mr. Tatsumi, Ms. Shimada, Mr. Sagiya)	Kigali
	10:15	- World Bank Joint Partner Mission Program (Briefing and Discussion of RDRP, MONUC, etc.)	
	PM	- Meeting/interview with Mr. Sagiya	
23 Oct. (Tue.)	AM	- Meeting/interview with Mr. Sagiya	Kigali
	14:00	- Visit STCs in Kigali and interviews with STC trainers, trainees, DRO and PPMEO	
24 Oct. (Wed.)	8:00	- Courtesy call on RDRC (Chairman, Coordinator, Commissioner, etc.)	Kigali
	10:00	- Meetings/interviews with MINALOC (officer in charge of Persons with Disabilities)	
	15:00	- Meetings/interviews with MIFOTRA/MINEDUC (officer in charge of Labor and Vocational Training)	

Date	Time	Activities	Accommodation
	16:30	- World Bank (Senior Operations Officer)	
25 Oct. (Thu.)	AM/PM	- Visit STCs in the Eastern region (with Economic Reintegration Officer, RDRC), and interviews with STC trainers, trainees, graduates, DRO and PPMEO	Kigali
26 Oct. (Fri.)	9:00	- Meetings/interviews with RDRC (Chief Reintegration Officer) - Additional interviews/meetings, as necessary	Kigali
27 Oct. (Sat.)		- Document preparation	Kigali
28 Oct. (Sun.)	AM PM	[Komukai, Aizawa] - 10:05 Arrival in Kigali (KQ1108) [Serizawa] - Document preparation Briefing by Ms. Serizawa	Kigali
29 Oct. (Mon.)	AM 11:00 15:00	- Team meeting - MONUC (Head of Kigali Office, Political Affairs Officer, DDRRR Officer) - Courtesy call on RDRC (Chairman, Coordinator, Commissioner, etc.)	Kigali
30 Oct. (Tue.)	7:30 AM/PM	- Courtesy call on MINALOC (Minister of State for Social Affairs) - Visit STCs in the Southern region (Seminar for Cooperative) and Interviews with STC trainers, trainees, DRO and PPMEO	Kigali
31 Oct. (Wed.)	8:30 PM	- Team meeting - Visit graduates of STCs in Kigali and Bugesera District	Kigali
1 Nov. (Thu.)	8:00 13:15 14:30 16:00 14:00	- Visit URA & Gako Organic Farming Training Center (Barrier-Free Renovation) and interviews with STC trainers and trainees - Visit FACHR (Group A) - Visit UAHLS (Group A) - Visit African Decade (Group A) - Visit AGHR (MERA) and Interviews with STC trainers and trainees (Group B)	Kigali
2 Nov. (Fri.)	8:00 AM/PM	- Meetings with RDRC on the evaluation results, PDM, PO, MM - Team meeting	Kigali
3 Nov. (Sat.)		- Document preparation	Kigali
4 Nov. (Sun.)		- Document preparation	Kigali

Date	Time	Activities	Accommodation
5 Nov. (Mon.)	AM 10:00 13:30	- Joint Coordination Committee (JCC) preparation - Team meeting - Joint Coordination Committee (JCC)	Kigali
6 Nov. (Tue.)	AM 10:00	- Signing of MM (RDRC (Chairman), MINALOC (Minister of State for Social Affairs) and MIFOTRA (Minister of State for Labor)) - TCC meeting (10:00 – 11.50) [Komukai, Aizawa] - 14:00 Departure from Kigali (KQ1107)	Kigali
7 Nov. (Wed.)		[Serizawa] - Collection of information, report writing [Serizawa] - 13:50 Departure from Kigali (KQ474)	

CS

AM

2

CS

## List of agencies visited

### Rwanda Demobilisation and Reintegration Commission (RDRC)

Mr. Jean Sayinzoga	Chairman
Mr. Faustin Rwigema	Coordinator
Mr. Daisuke Sagiya	JICA Expert, RDRC/JICA
Mr. Francis Musoni	Chief Reintegration Officer
Mr. Venus Makuzza	Economic reintegration Officer
Mr. David Sabiti	Monitoring and Evaluation Officer
Lt. Col. John Zigira	Commissioner
Ms. Verra Mukeshimono	District Reintegration Officer (DRO), Kicukire
Mr. Froduard Habiyaremye	District Reintegration Officer (DRO) Nyanza
Mr. Marc Gakwavu	Provincial Programme Monitoring and Evaluation Officer (PPMEO) Nyanza
Mr. Francois Uwimana	District Reintegration Officer (DRO), Huye
Mr. Sebastien Sebatutsi	Provincial Programme Monitoring and Evaluation Officer (PPMEO), Huye

### Ministry of Local Government, good governance, Community Development and Social Affairs (MINALOC)

Ms. Nicole Riziki	Acting Director of Community Development and Social Affairs Unit
-------------------	------------------------------------------------------------------

### Ministry of Public Service and Labour (MIFOTRA)

Ms. Julie Kamukama	Acting Director of Labour and Employment
Mr. Humble Nsengiyumva	Professional Officer of Vocational Training
Mr. Johnson Rutayisire	Taskforce member of RWDA

### Ministry of Education (MINEDUC)

Mr. Gerard Karamutsa	TVET Officer
Ms. Saeri Muto	TVET Adviser

### Amizero Training Centre

Mr. John Bideri	Executive Director
-----------------	--------------------

### Association Generale des Handicapes du Rwanda (AGHR)

CS AM 2 19

Mr. Zacharie Nkudiye	President
Union Rwandaise des Aveugles (URA)	
Mr. Frederic Gisanura	Director, Masaka Training Centre
CFJ Gakoni	
Mr. Protais Malidadi	Director
Rwanda Network Computer	
Mr. Pasa Mwenenganucye	Director of Administration and Finance
CFJ Nyanza	
Mr. Mudumiro Simon	Director
CFJ Rwabuye	
Brother Jean Babtiste Munyeragwe	Director
Gako Organic Farming Training Centre	
Mr. Richard Munyerango	Managing Director
Rwanda National Decade Steering Committee (RNDSC)	
Mr. James Ndahiro	President
Umbrella des Associations des Personnes Handicapees dans la Lutte Contre le SIDA (UAHLS)	
Mr. Bernard Bagweneza	Executive Secretary
National Council for Persons with Disabilities	
Mr. Pierre Claver Rwaka	President
Mr. Teddy Kaberuka	Social Affairs Officer
World Bank	
Mr. Ingo Wiederhofer	Senior Operations Officer
United Nations Organisation Mission in the Democratic Republic of Congo (MONUC)	
Mr. Joe Felli	Head of Office

cc: AM 2 15

Mr. Alexander Mackenzie Smith  
Ms. Rose Vincent

Political Affairs Officer  
DORRR Officer

*Handwritten initials: J, AM, 2, K*



**Joint Coordination Committee (JCC) on 5<sup>th</sup> November, 2007**  
**Attendants**

Annex 9

No.	Name	Organisation	Title
1	Mr. Jean Sayinzoga	RDRC	Chairman
2	Mr. Faustin Rwigema		Coordinator
3	Mr. Francis Musoni		Chief Reintegration Officer
4	Mr. David Sabiti		Monitoring and Evaluation Officer
5	Mr. Daisuke Sagiya		JICA Expert
6	Mr. Floribert Jean Bahoze		Assistant of GoR/JICA Project
7	Ms. Angelina Muganza	MIFOTRA	Minister of State in Labour
8	Mr. Humble Nsengiyumva		Professional Officer of Vocational Training
9	Ms. Nicole Riziki	MINALOC	Acting Director of Community Development and Social Affairs Unit
10	Mr. Iwao Tasumi	JICA	Resident Representative, JICA Rwanda Office
11	Ms. Eri Komukai		Senior Adviser (Peacebuilding), JICA
12	Ms. Emi Aizawa		Senior Program Officer, Social Security Team Group II, Human Development Department, JICA
13	Ms. Akemi Serizawa		Social Development Specialist, Global Link Management
14	Ms. Tomoko Shimada		Human Resource Development Advisor, JICA Rwanda Office
15	Mr. Pasa Mwenenganucye	Rwanda Network Computer	Director of Administration and Finance
16	Mr. Richard Munyeragwe	Gako Organic Farming Training Centre	Managing Director
17	Ms. Uwineza Laetitia	AGHR	Project Manager
18	Ms. Jo Nicholas		Management Advisor
19	Mr. Simon Mudumiro	CFJ Nyanza	Director
20	Mr. Protais Malidadi	CFJ Gakoni	Director
21	Bro. Baptiste Jean Munyeragwe	CFJ Rwabuye	Director
22	Mr. Frederic Gisanura	URA	Director, Masaka Training Centre
23	Mr. Eugene Ruzindana	CFJ Kibali	Director
24	Mr. Sam Gakinaya	Amizero Training Centre	Training Coordinator

CS AM J S-

2. 評価グリッド (詳細含む)

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Result
<b>Performance</b>			
1. Achievement	Inputs by the Rwandan side	Counterpart personnel	RDRRC6名。2007年10月現在で協力STC9校の校長9名。(過去にもう1校と協力実績あり)
		Operational expenses	Frw580,540 (ラジオでの訓練生募集、Gakoのバリアフリー化工事費用の一部)
		Office, equipment	オフィス1部屋、光熱費・インターネット(MINALOC建物内)
		Expert(s) Equipment	長期専門家1名。 なし。
Activities	Inputs by the Japanese side	Operational expenses	プロジェクト開始から2007年9月までの在外事業費は約Frw2200
		Progress of activities	(Reportにまとめたとおり)
		Obstacles experienced Measures taken and results	プロジェクト活動については特になし
		Output 1: "STC's capacity to accept Persons with Disabilities (PwDs) is strengthened."	2007年10月現在で、バリアフリー化されているのは6校。うち2校(ATC、ガコニ)が本プロジェクトでバリアフリー化された 3回のTOTに計174名が参加した
Achievement of Outputs	Progress of activities	Indicator 1-1: Seven (7) STCs are renovated to be barrier-free facilities.	1) 2007年3月 障害者の技能訓練に関する意識向上の Consultative Workshop 93名 2) 同 TOT 41名 3) 2007年5月 有機農法研修 URA農業講師のTOT1名
		Indicator 1-2: Sixty (60) participants receive ToTs.	
		Indicator 1-3: ToTs are conducted three (3) times.	
		Other achievements	
Output 2: "DSwDs acquire vocational skills."	Progress of activities	Indicator 2-1: Eight hundred (800) DSwDs receive skills trainings.	2007年9月末までの入学者累積数は598人(在学中、中途退学、卒業生含む)(専門家データ)
		Indicator 2-2: Eight hundred (800) DSwDs graduate from STCs.	2007年9月末までの卒業生累積数は256人(同上)
		Indicator 2-3: Sixty percent (60%) of the trained DSwDs by the GoR/JICA project generates income for self-support.	2007年7月のFollow-upサーベイでそれまでの卒業生214名を対象に調査、回答があった138名中、1度でも訓練で習得した技能を活用して仕事をしたことがある者が94名(68%)となった。

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Result
		<p>Indicator 2-4: Number of the trained DSWDs by the JICA project joins cooperatives and associations.</p> <p>Other achievements</p> <p>Indicator 3-1: Database on STCs is developed.</p> <p>Indicator 3-2: Database on DSWDs is developed.</p> <p>Other achievements</p> <p>Indicator 1: Methods on the following topics are developed:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- How to monitor and follow-up the trained DSWDs</li> <li>- How to find appropriate courses of skills trainings considering of levels of disabilities and opportunities of income</li> <li>- How to develop the database on Skills Training Centres (STCs)</li> <li>- How to conduct Training of Trainers (ToTs)</li> <li>- How to make facilities barrier-free</li> <li>- Aforementioned topics are compiled as the manual.</li> </ul> <p>Indicator 2: Facilities are improved by barrier-free renovations.</p> <p>Other achievements</p>	<p>上記138名中35名がCooperativeかAssociationに参加。</p> <p>本プロジェクトで作成中</p> <p>同上</p> <p>* 訓練生フォローアップを2007年7月に実施。 * 訓練生の選定は、RDRCと各校の協力のものと、障害の程度とコースをマッチングしている。 * STCのデータベースはRDRCの協力のもとプロジェクトが作成している。 * TOTはRDRC主催として、プロジェクトの協力のもと実施している * パリアフリー工事は、MINEDUC、各校、Districtオフィスの協力のもとプロジェクトが実施している * マニュアルは、プロジェクト終了までに作成予定</p> <p>上記活動は、全体としてプロジェクトが行っており、ルワンダ側にノウハウが蓄積されているわけではない。 ルワンダ側機関の役割が流動的(除隊兵士の社会復帰はRDRCの役割だが、その解体または縮小後はどうなるか。また、「障害を持つ除隊兵士の技能訓練」について一義的に責任を持つ政府機関はない。技能訓練=MIFOTRA、RWDA、障害者=MINALOC)</p> <p>したがって、ノウハウ・マニュアルは、まずはプロジェクトがRDRCと共有し、RDRCから関係機関に共有すべき。</p> <p>2007年10月現在で、パリアフリー化されているのは6校。うち2校(ATC、ガコニ)が本プロジェクトでパリアフリー化された</p>

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Result
2. Implementation process	Management system	Counterpart personnel assigned to the Project	RDRRCが「除隊兵士の社会復帰」を役割としているのでここがCPなのは適切。①RDRRCはいずれ解体あるいは縮小予定であること、②技能訓練＝現在MIFOTRA, RWDA、今までMINEDUC、障害者＝MINALOCが担当省庁であることか、中長期的に「障害を持つ除隊兵士の技能訓練」に一義的に責任を持つ機関は今のところ特定されていない。プロジェクト期間中はRDRRCとノウハウを共有する。
		Decision making process: modification of activities etc.	RDRRCや各STCと協力して決定。
		Monitoring of the Project	各協力校からは、訓練期の中間にProgress Report、終了時にFinal Reportを提出してもらっている。
			次の活動の計画実施には、モニタリング結果が反映されている。
			日本側のプロジェクト管理に使用 (RD締結時やJCC時) はともかく、日常的にはルワンダ側では意識されていない。
			PDMは2007年2月の運営指導調査で一度改訂された。(それ以前のPDMはルワンダ側と共有されていなかったの) で、改訂後のものが実質的には最初の(PDM)
			RDRRCやSTCとは問題なし。他の関係省庁(MINALOC、MIFOTRA)との連絡はあまり密接でない。
			問題なし。
			RDRRCが「除隊兵士の社会復帰」を役割としているのでここがCPなのは適切であるが、①RDRRCはいずれ解体あるいは縮小予定であること、②技能訓練＝現在MIFOTRA, RWDA、今までMINEDUC、障害者＝MINALOCが担当省庁であること) から、中長期的に「障害を持つ除隊兵士の技能訓練」に一義的に責任を持つ機関は今のところ特定されていない。ただ、地方分権化が進んでいることから、地方レベルでは分野間の連絡・協力はやりやすい環境にある。
	Transfer of technology	How transfer of technology is implemented	How transfer of technology is implemented

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Result
Ownership	Participation of Rwandan managers in the Project	Participation of Rwandan managers in the Project	各機関の本来業務と関係するプロジェクト業務に関しては、参加度が高い。データベース作成等は日本人専門家が中心となって実施している。
	Input by the Rwandan side	Financial and in-kind inputs and human resources	適切。 ただし、プロジェクトの最初にプロジェクト事務所が遠くだったので、RDRRCとの連絡が不便だった。今は、RDRRCのあるMINEDUCビル隣のMINALOCビル内に移ったので、近くなり問題なし。
	Participation of Rwandan project members	Participation of Rwandan project members	各機関の本来業務と関係するプロジェクト業務に関しては、参加度が高い。データベース作成等は日本人専門家が中心となって実施している。
	Maintenance of the equipment provided by the Project	Maintenance of the equipment provided by the Project	プロジェクト活動のための機材提供はない。
	Collaboration with other projects/activities	Collaboration with other cooperation projects/activities of Japan Collaboration with other donors	特になし。 RDRP関連ドナーと情報共有はしているが、プロジェクトの最初から十分協議していたとはいえない。日本はRDRRPの一員ではない
Others	Other issues in the implementation process	Other issues in the implementation process	
<b>Five evaluation criteria</b>			
1. Relevance	Necessity	Relevance to the needs of Rwanda	RDRRCの除隊目標(2008年末までに47,500人)に対し、現在までに約4万人が除隊し、実績との差は約7700人。そのうちEx-AGが約5800人。除隊兵士の中で障害を持つ者が約5000人いる(2007年3月現在)。彼らの社会復帰の必要性は、紛争後の平和構築の観点からも高い。
		Relevance to the needs of the target group	除隊兵士の社会復帰手段の一つとして、技能訓練の必要性はある。
	Priority	Relevance to the national policy of Rwanda	「障害者法」「障害を持つ除隊兵士法」が制定された。

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Result
	Relevance to the Japan's development assistance policy to Rwanda	Japan's assistance policies to Rwanda (including JICA's development assistance program) and priority areas	「人間の安全保障」、紛争後の平和構築に日本は重点を置いており、本プロジェクトは合致。 JICAの対ルワンダ援助重点分野は「人的資源開発」と「人的資源開発」に入っているが、「人的資源開発」の下で設定された開発課題「科学技術教育・訓練の強化」とは若干方向が違う。
	Appropriateness as a strategy	Appropriateness of the Project Purpose, Outputs, selection of the counterpart organization and the target group	PDM整理の必要あり。 異なるレベルに同じ内容が重複していたり、行動の主体が明確でない。
		Logic between Activities → Outputs → Project Purpose → Overall Goal	同上
		Comparative advantage of Japan	歴史的に日本が中立的な立場をとっていること、日本への好感度が高い（緒方さん）という意味で優位性はあると思う（専門家）
		Process of selection of the counterpart organization and the target group	現在の枠組みで、RDRCと各STCをCPとして活動しているのはよいが、RDRCの解体あるいは縮小、除隊兵士にかかる様々な政策・事業の各省庁への吸収(Mainstreaming)が近い将来見込まれる。
	Others	Political, economic and social change after the Project started	(同上)。
2. Effectiveness	To what extent the Project Purpose is likely to be achieved	Indicator 1: Methods on the following topics are developed. —	STCは、プロジェクトを通じ除隊兵士や障害者の受け入れの経験をつんできた。しかし省庁レベルでは、各省庁の中長期的役割が明確でない(RDRCの解体あるいは縮小の可能性及び、技能訓練の監督省庁がたびたび変わることもあり、プロジェクトのノウハウは意識してRDRCに残す必要あり
		Indicator 2: Facilities are improved by barrier-free renovations.	2007年10月現在で、バリアフリー化されているのは6校。うち2校(ATC、ガコニ)が本プロジェクトでバリアフリー化された
	Factors that might obstruct achievement of the Project Purpose	Obstacles and measures taken	2008年以降、障害を持つ除隊兵士の技能訓練を一義的に担当する省庁は今のところ特定されていない。



Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Result
Causality between the Outputs and the Project Purpose	Logic between the achievement of the Outputs and the Project Purpose  Whether the Important Assumption is applicable. What measures are taken if it is not met. Any other possible Important Assumptions.  Whether the Outputs have been achieved according to the plan Obstacles to the achievement of the Outputs	Causality between the Outputs and Project Purpose  (there is no Important Assumption between Outputs and Project Purpose) Other possible Important Assumptions and their effect on the Project  The extent to which the Outputs have been achieved. Obstacles and measures taken	STCレベルでは除隊兵士・障害者の受け入れ能力は向上しているが、省庁レベルではRDRC後「障害をもつ除隊兵士の技能訓練」を一義的に担当する機関が特定されていないため、今のところはRDRCとノウハウを共有し、RDRCから関係機関に伝えてもらうことを強調。  (PDM修正)  現在のOutput指標に関しては、達成見込みは高い。
3. Efficiency	Achievement of the Outputs  Causality between the Activities and the Outputs  Whether the Activities were sufficient to achieve the Outputs Whether the Inputs were sufficient to achieve the Outputs Whether the Important Assumption is applicable. What measures are taken if it is not met. Any other possible Important Assumptions.	The extent to which the Outputs have been achieved. Obstacles and measures taken  Analysis of the Activities and the level of achievement of the Outputs Analysis of the Inputs and the level of achievement of the Outputs IA1: STCs continue to be in operation IA2: DSWDs have willingness and capacity to absorb vocational skills. IA3: Appropriate institutions to install a system to accumulate information are identified. Other possible Important Assumptions and their effect on the Project	現在のOutput指標に関しては、達成見込みは高い。  PDMの「活動」ではないが実施されている活動が多々あり、これらがOutput達成に不可欠となっている。  Inputs→Outputsの関係では、Inputsの質・量は適切。  今までのところ協力校は活動を続けている。  ほとんどのDSWD訓練生はやる気があり、現在までのところ入学者598名に対し中途退学や卒業試験不合格の割合は小さい(卒業率約93%)。  「障害をもつ除隊兵士の技能訓練」の情報を蓄積する機関(RDRC後)はまだ特定されていない。
Appropriateness of the Inputs	Whether the quantity, quality, timing of the Inputs were appropriate. Whether these were utilized for the Activities.	Experts (number, technical areas, timing of dispatch) Equipment provided by the Japanese side (items, number, spec, price, quality, timing) Operational expenses provided by the Japanese side (amount, timing)	(PDM修正)  適切  供与機材という形での投入はない。  適切

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Result
		Counterparts (number, technical areas, position, timing of assignment)	現在の枠組みで、RDRCと各STCをCPとして活動しているのはよいが、RDRCの解体あるいは縮小、除隊兵士にかかる様々な政策・事業の各省庁への吸収(Mainstreaming)が近い将来見込まれる。2008年以降「障害を持つ除隊兵士の技能訓練」を一義的に担当する機関はまだ待たされていない
		Equipment provided by the Rwandan side (items, number, spec, price, quality, timing)	プロジェクト事務所とその電気代等。適切
		Operational expenses provided by the Rwandan side (amount, timing)	適切
4. Impact	To what extent the Overall Goal is likely to be achieved	Indicator 1: Increase in the employment rate of DSWs. Indicator 2: Improvement of the relationships between DSWs and family, neighbours, friends and social groups of communities.	Employment rateの定義を「一度でも習得した技能を使って仕事したことがある」とすると、卒業生の就職率は68%。 訓練校内部では、一般生徒と混じって、また違う独自の除隊兵士が混じって問題なく活動しているとのことである。Cooperativeを作るときも、違う独自のものが混じっている。また、ベースラインサーベイとフォローアップサーベイを比べて、「より幸せになった」「他者との関係が良くなった」者が多い。
	Obstacles to the achievement of the Overall Goal	Progress so far. Contributing factors and obstacles	RDRC後「障害を持つ除隊兵士の技能訓練」を特に担当する機関がまだ特定されていないこと。他の関係省庁がこの課題にどの程度とりにくんでいくか。
	Logic between the Project Purpose and the Overall Goal	Logic of the Project. Contributing factors and obstacles.	「障害を持つ除隊兵士の技能訓練」に一元的に責任を持つ機関は、RDRCの解体後は、ない。
	Whether the Important Assumptions are still applicable.	IA 1: The legal framework of protection of DSWs is established and the access to employment is improved. IA 2: Peace in the community that DSWs is reintegrated is secured and reconciliation is maintained.	「障害者法」「障害を持つ除隊兵士法」が制定された。雇用においては、それ以外は同じ条件の候補者なら障害者が優先して採用されるという法律がある。 今までのところ問題ない
		Other possible Important Assumptions and their effect on the Project	(PDM修正)
Impact	Unforeseen positive impact	Examples of positive impacts in the counterpart organization	*STC等の障害者に対する意識の向上。

Topics	Evaluation questions	Information to be collected	Result
		<p>Political, institutional, social and cultural impacts</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Change of policies, laws, systems, etc.</li> <li>• Technical innovation</li> <li>• Impacts on different social groups (origin, class, ethnic groups, gender, etc.)</li> </ul>	<p>* Radio Okapiでこのプロジェクトのこと(卒業生のインタビュー)が放送され、それを聞いて帰還したEX-AGがいるとの話</p>
	Unforeseen negative impact	<p>Examples of negative impacts in the counterpart organization</p> <p>Political, institutional, social and cultural impacts</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Change of policies, laws, systems, etc.</li> <li>• Technical innovation</li> <li>• Impacts on different social groups (origin, class, ethnic groups, gender, etc.)</li> </ul>	<p>特になし</p> <p>* 慢性疾患を持つ人を対象からはずしている(身体的障害があっても)、反感がある。</p>
5. Sustainability	Political support to reintegration of ex-combatants and support to people with disabilities in Rwanda	<p>Policies of Rwanda</p>	<p>* 除隊兵士の社会復帰は重視されているが、RDRCCの解体・縮小後はわからない。他省庁の業務に横断的に吸収されると、特別な対象者グループとしては見えにくくなるので、軽視される可能性もある。</p> <p>* 「障害者法」「障害をもつ除隊兵士法」がある。障害者はMINALOCの管轄であるが、他省庁と横断的に連携する必要がある(例えば障害者の技能訓練)。</p>
	Organizational structure of relevant institutions: capacity to maintain the level of the activities after the Project ends.	Organizational structure and personnel arrangement	<p>STCレベルでは除隊兵士・障害者の受け入れ能力は向上している(持続性も見込まれる。資金の問題はあるが)、省庁レベルではRDRCC後の責任の所在が一元化していないので、今までの活動を能力向上にはつなげるにはRDRCCとのノウハウ共有、RDRCCから関係省庁への情報提供を確実にする必要あり。</p>
	Budget allocation of Rwanda	Budget	<p>中央レベル、地方レベル(STCレベル)で資金確保をする必要あり</p>
	Whether the counterparts are likely to improve their skills so that they can perform the functions independently after the Project ends.	Situation of capacity building of the counterparts	<p>STCレベルでは除隊兵士・障害者の受け入れ能力は向上している(持続性も見込まれる。資金の問題はあるが)、省庁レベルではRDRCC後の責任の所在が一元化していないので、今までの活動を能力向上にはつなげるにはRDRCCとのノウハウ共有、RDRCCから関係省庁への情報提供を確実にする必要あり。</p>
	Whether the products of the Project (evaluation documentation, etc.)	Whether the counterparts would stay	(同上)

Topics	Evaluation questions (regulation, documentation, status of examination/operation and maintenance) will be utilized continuously after the Project Contributing factors and obstacles	Information to be collected How the equipment is utilized and maintained Others Contributing factors and obstacles	Result (該当せず)
Whether the Project Purpose is likely to be achieved Whether the Project needs modification Needs of modification of Inputs, Activities and Outputs Needs of modification of the Indicators and target Needs of modification of the Important Assumptions Others	Whether the Project Purpose is likely to be achieved	To be decided after analysis of information collected	RDRC後を見越して、RDRCとのノウハウ共有、RDRCから各関係機関への情報提供を確実にする必要あり
	Needs of modification of Inputs, Activities and Outputs	ditto	(PDM修正)
	Needs of modification of the Indicators and target	ditto	(PDM修正)
	Needs of modification of the Important Assumptions	ditto	(PDM修正)
	Others	ditto	

**Summary of responses to the questionnaires**  
**Mid-term evaluation of “The skills training for the reintegration of demobilized soldiers with disabilities” Project in Rwanda**

**Questions for trainers at the STCs**

Respondents: 5 STCs

STC A: Director

STC B: Trainers (4 from 2 courses)

STC C: Director and trainers (4 from 4 courses)

STC D: Trainers (collective response)

STC E: Director and trainers (2 from 2 courses)

- 1) How many ex-combatants with disabilities participate(d) in the training courses at your STC? Please show the details (course, number of current trainees and graduates and composition of ex-RDF, ex-FAR, ex-FAR and ex-AG, etc).
- 2) Please explain the details of the training courses (curricula, training period, goals, admission qualifications, number of trainees, particular target groups, etc.)
- 3) What is the selection process of the trainees at the STCs?  
Was it developed particularly for the students supported by the JICA Project?
  - ✓ *STC A, D: DSwDs and other trainees mixed*
  - ✓ *STC B, C: Classes are only for DSwDs*
- 4) Does your STC make any special arrangement for ex-combatants (with/without disabilities)? What kind of arrangement is it?
  - ✓ *To identify courses suitable for different disabilities*
  - ✓ *To provide them physical and psychological support*
  - ✓ *To encourage them to form cooperatives*
  - ✓ *Barrier-free facilities (toilets etc)*
- 5) Was there any change in attitude and behavior of ex-combatants (with/without disabilities) during the training? How the relationship of among them and that between ex-combatants and fellow trainees has changed?
  - ✓ *Trainees developed interest in the skills they learn.*
  - ✓ *Levels of knowledge improved.*
  - ✓ *There have been changes in attitude and behavior of the trainees. They are more disciplined.*
  - ✓ *There was an impact on them from mixing with other people.*
- 6) How is the monitoring of the graduates being carried out?
  - ✓ *STC A: Physical visit to workplaces. We ask trainees to inform their whereabouts on graduation.*
  - ✓ *STC D: No monitoring except for occasional contact with the graduates living nearby.*
- 7) What is the employment situation of the graduates, particularly ex-combatants with

disabilities?

- ✓ *STC A, B: Some are employed (by others). Others formed cooperatives or working in self-help projects.*
  - ✓ *STC C.D: No previous examples (they are training first group of DSwDs). Employment situation would be difficult. If graduates do not live in the same areas, it would be difficult to form cooperatives. With good skills and follow-up, the results could be good.*
  - ✓ *STC E: Most people form cooperatives. It is difficult to get materials to start with.*
- 8) What strategies do you (and the STC) take to promote employment of the graduates, particularly ex-combatants with disabilities?
- ✓ *STC A: Sensitization of public, community and employers about presence and ability of persons with disabilities.*
  - ✓ *STC E: To encourage trainees to form cooperatives.*
- 9) Do you see any difference between ex-RDF, ex-FAR and ex-AG during the training and after graduation (economic and social situation)?
- ✓ *STC C-E: No difference*
- 10) What are the situations of women ex-combatants in skills training? (courses, number/share, employment situations, etc.)
- ✓ *STC A-E: No women DSwD trainees so far.*
- 11) What did you learn from the TOT? How do you apply the result of the TOT to your work?

(If participated):

Curriculum development:

- ✓ *I learned that curriculum should be harmonized.*
- ✓ *We shared information.*
- ✓ *It was useful for trainers to be able to help persons with disabilities individually.*

Awareness raising:

- ✓ *I learned that disability is not inability.*
- ✓ *I learned about specific points to assist persons with disabilities.*

12) Impacts of the Project

- ✓ *Barrier-free facilities.*
- ✓ *Change in the lives of DSwD trainees.*

13) Suggestions

- ✓ *Longer training period.*
- ✓ *Starter kits should be strictly followed by the local authorities because some graduates sell them.*
- ✓ *Training fee should be increased to deliver quality training (in terms of teaching materials and trainers' salary.)*



## Questions for trainees/graduates of the STCs

Respondents: 4 STCs

STC A: Current trainees (4 from 3 courses) and a graduate (1)

STC B: Current trainees and graduates (6 from 2 courses: collective response)

STC C: Current trainees and graduates from several courses (collective response)

STC D: Current trainees (40 from 5 courses)

1) What course do/did you take? Since when?

2) Why do/did you take this course?

- ✓ *It will increase chances to get a job. / It will give me better opportunities.*
- ✓ *I would like to improve my life (well being) and that of my family.*
- ✓ *There is a demand in this sector/job.*
- ✓ *This skill would be more remunerating.*
- ✓ *I am interested in this job/skill.*
- ✓ *I liked this option among those offered.*
- ✓ *It was the option for me given my situation (physical conditions and/or level of education).*

What is your plan after graduation? / What do you do after graduation?

(Trainees)

- ✓ *To form cooperatives with others. (and create own jobs)*
- ✓ *To work with entrepreneurs*
- ✓ *To find a job in the sector.*
- ✓ *To apply skills I learned.*
- ✓ *To work in hand in hand with the population and the government.*
- ✓ *To keep a good relationship with clients.*

(Graduates)

- ✓ *We formed a cooperative with others.*
- ✓ *I don't have a job now, but I will get it when the time comes.*

3) How are you going to find a job? /How did you find a job?

- ✓ *By joining a cooperative.*
- ✓ *Would like to create own job rather than working for others.*
- ✓ *Will search here and there*

4) What have you found useful or not useful among the course contents or services at the STC? Why?

(Useful)

- ✓ *All were useful.*
- ✓ *The training not only improved skills /knowledge, but also opened up my mind.*

(Problems)

- ✓ *In some training courses there is a risk of accidents and physical damage. No protection (insurance) for that.*
- ✓ *Some occupations require more expensive machines/materials to start up than others.*
- ✓ *Training period is too short.*
- ✓ *Daily allowances, accommodation, food (at the centres) and transport arrangement*

*are not enough.*

5) Do you have any suggestions to improve the training courses and services at the STC?

- ✓ *More industrial training / internship.*
- ✓ *Longer training period.*
- ✓ *Update contents of the courses to catch up the change.*
- ✓ *Supplementary training sessions in related areas (for example, to combine carpentry and electronics) to increase chances to get a job.*
- ✓ *To prepare enough working materials and tools.*
- ✓ *To help students to find a job. / To do more follow-up.*
- ✓ *Dormitories, because it is hard to find a place to stay without enough money.*
- ✓ *To increase daily allowance*
- ✓ *English-speaking people and French-speaking people should talk more to know each other.*
- ✓ *To sensitize more people about (our) training.*
- ✓ *I found the training difficult because of my disability.*

6) What change did you experience after taking training at STCs? (job, level of income, residence, family relationship, position in the community, etc.)

*(Graduates)*

- ✓ *Better economic and social situation.*
- ✓ *It had changed a lot with me.*
- ✓ *Offence from others because I have money.*
- ✓ *Not easy to get a job because the demand is small (or got smaller due to change of situation)*

*(Current trainees)*

- ✓ *The skills I learn will improve my life (well being) and that of my family, economically and socially*
- ✓ *To develop myself, family and society.*
- ✓ *Social skills to live and work with others in harmony.*

7) Do you keep in touch with your fellow trainees after graduation? Do they have the same background with you?

- ✓ *(Will) remember them because we shared a lot in the course (and the previous life as combatants)*
- ✓ *(Will) work together in cooperatives.*
- ✓ *(Will) continue visiting each other*
- ✓ *(Will) help each other find a job / seek advice and share news*
- ✓ *I would not get in touch with others; we have different backgrounds.*

8) Other comments

- ✓ *Want help to get working tools and a house to work in (to start cooperatives). We have no resources.*

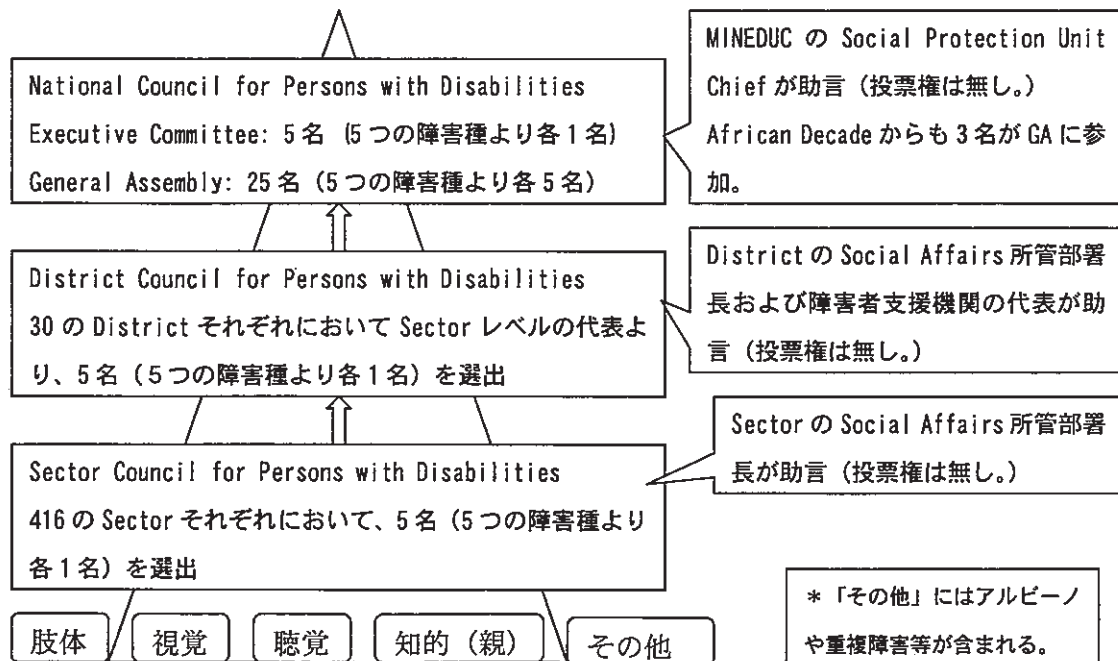
2007年11月1日

障害者団体の連合の組織改編について：3つの障害者団体における聴き取り内容

- National Council for Persons with Disabilities: Mr. Pierre Claver Rwaka, President, Mr. Teddy Kaberuka, Social Affairs Officer
- Rwanda National Decade Steering Committee (RNDSC): Mr. James Ndahiro, President
- Umbrella des Associations des Personnes Handicapees dans la Lutte Contre le SIDA (UAHLS): Mr. Bernard Bagweneza, Executive Secretary

1. 障害者団体の連合の組織改編

- ① 前身の FACHR (Federation of Associations and Centres of the Handicapped in Rwanda, 2001 年設立) において、異なる障害種別の平等な参加が確保されていなかったこと、資金面で透明性が不十分であったこと、障害を持つ除隊兵士の参加が不十分であったこと等の問題が生じ、改善が必要とされていた。
- ② 政府の支援により、組織改編を行うこととなった。MINALOC からのポリティカル・サポートを得て、代表者の選挙を行った。(選挙実施に関し、MINALOC の Minister of State と RDRC の Chairman がラジオで説明し、除隊兵士を含む障害者に投票を促した。) セクター・レベルから国家レベルまでの選挙を 10 月 5-7 日の 3 日間で実施。同選挙は National Electoral Commission の監督のもと、実施された。
- ③ 新しい組織の構成は以下のとおり：



- ④ Council は障害種別の 5 つのアソシエーションを統括するもので、セクター・レベルから各障害種別に選任された代表者が意思決定を行う。
- ⑤ National Council の主な機能は以下のとおり：
  - 1. 障害種別のアソシエーションおよび障害者福祉施設の活動を調整する。
  - 2. アソシエーションが目的を達成できるよう助言する。
  - 3. 障害者を代表する国会議員を選出する。
  - 4. Eastern African Commission において障害者を代表する候補者 2 名を選出する。
  - 5. 障害者のための計画、活動、サービスに関し、調整した意見を提供する。
  - 6. 障害者の権利を保護し、促進する。
- ⑥ 障害者支援に関心のあるドナーはまず National Council にコンタクトし、重複や偏りの無いように活動の調整を行う。
- ⑦ このような組織体制にした背景には、DfID が実施した調査（"Mainstreaming Disability in Development: Country-level research, Rwanda Country Report" 2005 年 4 月）による提言と、2005 年に実施したウガンダの障害者団体の状況視察（ルワンダの障害者団体の代表が参加）がある。ウガンダでは、国家レベルで各障害種別の代表がいるが、ルワンダでは、これをセクターのレベルから実施することとした。

## 2. 今後の計画、課題

- ① 代表者の選挙が実施されたばかりで、FACHR からの引継ぎもこれからである。
- ② まずは General Assembly を開催し、各障害種別にどのような問題があり、優先課題は何であるのかを検討する予定。その結果をふまえ、戦略と行動計画を策定する。戦略と行動計画ができた段階で、ドナー（二国間援助機関や国際 NGO 等）に支援を要請する考え。最初の大きなイベントは国際障害者の日（12 月 10 日）になると思う。
- ③ 各レベルにおける Council の代表者として選ばれた障害者の多くは、このような活動への参加経験が無く、組織運営、戦略策定、活動計画、活動資金獲得等、多くの面においてキャパシティが不足している。1) これら代表者のトレーニングに対するニーズを確認して適切なトレーニング計画を策定し、2) 代表者の中からトレーナーになる資質のある者を選び、3) ToT を実施し、4) トレーナーが他の代表者に対するトレーニングを実施することが必要。
- ④ 各 District にリソース・センターを設置して、障害者に必要な情報を提供するとともに、障害者が集う場を提供するようにしたいと考えている。また、障害者に関する正確な統計が無いことから、障害者統計が必要と考えている。

### 3. 除隊兵士と一般市民の障害者の比較

- ① 障害の原因が何であろうと、障害者であるという点で平等であると考えている。
- ② DSwDs の特徴として、1) 突然障害者になったことを受け入れるのが困難な場合が多い、2) 成功志向が強く、新しいことに挑戦する傾向がある、という点がある。

以上

2007年10月30日

協同組合 (cooperative) に関する情報

Nkunda Denise 氏 (MINICOM Taskforce メンバー)

1. MINICOM タスクフォースについて
  - ① MINICOM に設置された cooperatives (以下、協同組合) を推進するタスクフォースのメンバーは全員で 12 名。半数以上が女性。
  - ② 全国の協同組合や、協同組合の設立に関心のあるグループからの要請を受け、タスクフォースのメンバーが出向いて説明会や研修を実施する。(内容：協同組合の意義と設立方法、運営管理方法、リーダーシップトレーニング等)
  - ③ 来年半ば頃に、協同組合推進タスクフォースが MINICOM から独立した機関 (autonomous body) となることが計画されている。
2. 協同組合について
  - ① 最少人数 7 名。人数の上限無し。
  - ② MINICOM への登録が必要。その際に、設立の目的や活動計画を提示し、審査を受ける必要がある。登録をすることで、協同組合は legal status を得て、法的保護を受ける。(association との違い)
  - ③ 設立時の構成は問わない (例：除隊兵士のみでもよい) が、参加を希望する者は差別なく受け入れることが協同組合の方針となっている。
  - ④ 協同組合設立時に、各メンバーは同額 (額は組合によって異なる) のメンバーシップ・フィーを納めることになっている。各メンバーが平等の発言権を有するため、同額であることが必須。なお、フィーを一度に納めることが不可能な者は分割納付が可能。
  - ⑤ MINICOM タスクフォースは、協同組合設立や運営に関する助言を行うほか、資金の借り入れが必要な協同組合が銀行の支援を得られるよう、銀行 (Rwandese Development Bank 等) に推薦することもある。この場合、組合はプロジェクトのプロポーザルを MINICOM タスクフォースに提示し、審査を受ける必要がある。
  - ⑥ 協同組合において、資金の着服等の問題が起きた時には、厳しく処罰している。該当者は全額を組合に返還する必要があり、資産を差し押さえられることもある。
  - ⑦ 協同組合の課題の一つは付加価値による収益の増加。例えば、コーヒー農家の協同組合においては、これまで生豆を仲買人に廉価で売っていたが、協同組合で焙煎機を購入し、加工して販売することで収益を増やすなどの努力をしている。

以上

\*Denise 氏はウガンダ生まれ。2000 年から KIST でマネージメントを勉強するまではウガンダ在住。2005 年に MINICOM 入省。